

ニッケグループ
環境報告書

2012

【詳細版】



人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループをめざして

NIKKE
Group

ニッケグループの概要

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”
 であることを経営理念に掲げて、繊維事業のみに
 とどまらない多角的な事業で成長をめざしています

ニッケは1896年の創業以来、ウールの総合メーカーとして高い評価を得てきました。
 現在では繊維事業にとどまらない多角的な事業を展開し、ニッケグループを形成しています。
 110年あまりにわたって受け継がれてきた創業時のチャレンジ精神と、
 経営理念にある「やさしく、あったかい」企業風土で、持続可能な成長をめざしています。

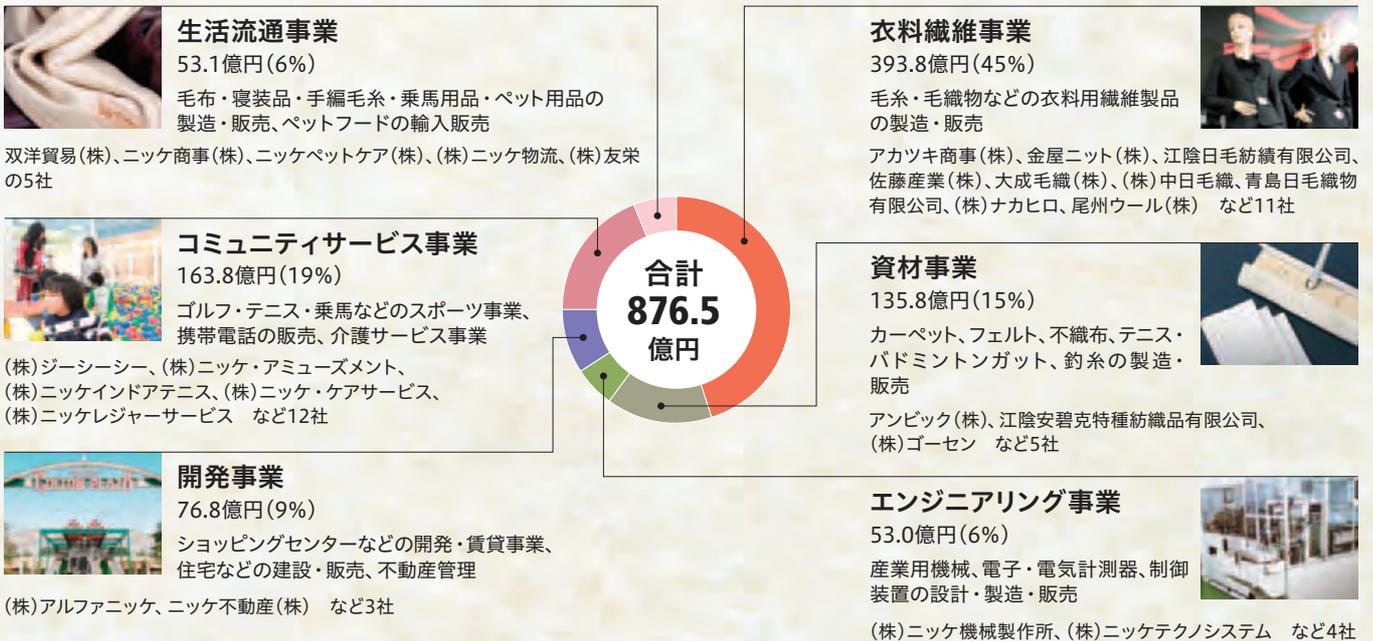


マスコットシープ「うーるん」
 「ウール」の持つ「やさしく、あったかい」を表す
 シンボルとして活躍しています。

会社概要

通称社名	ニッケ	代表者	取締役社長 佐藤 光由
社名	日本毛織株式会社	資本金	6,465百万円
所在地	大阪市中央区瓦町三丁目3番10号	売上高	連結 876.5億円
設立	1896年(明治29年)12月3日	従業員	連結 4,466名 ※2011年11月現在

ニッケグループの事業別売上構成比(2011年度)



● 連結売上高



● 連結利益



● 従業員数



編集方針

「環境報告書2012」の編集にあたって

本報告書は、ニッケグループの環境・社会活動について、2011年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。報告書の発行は本年度で8回目となり、環境パフォーマンスデータについては国内の衣料繊維製造部門・資材製造部門とショッピングセンター部門について報告しています。2010年版の報告書から特筆すべきトピックスを載せた特集ページを設けています。冊子はダイジェスト版とし、当社のウェブサイトには詳細版を掲載しています。

URL : <http://www.nikke.co.jp/csr/ecology.html>

報告対象組織

■ 環境パフォーマンスデータ

日本毛織株式会社

製造事業所3カ所：印南工場、一宮事業所、岐阜工場

オフィス8カ所：本社、神戸本店、東京支社、北海道営業所、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、九州営業所

ショッピングセンター2カ所：ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウン

国内グループ会社(5社)

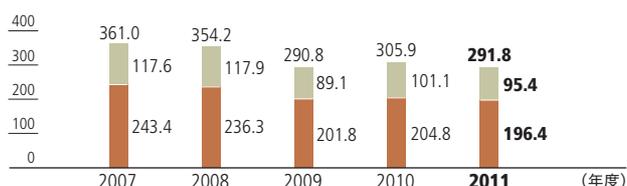
尾州ウール株式会社、大成毛織株式会社、金屋ニット株式会社、アンビック株式会社、株式会社ゴーセン

連結対象組織における報告対象組織の補捉率は約60%です。これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測したのですが、補捉率の精度向上のため、今後、より広い範囲でエネルギーデータの収集に努めます。

● パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標

■ ニッケ3事業所出荷額合計 ■ グループ会社5社売上高合計

(億円)



■ 環境マネジメントおよび環境保全活動の取り組み

ニッケグループとしての取り組みおよび各社の活動を報告しました。

■ 社会的取り組み・マネジメント

ニッケグループとしての取り組みを報告しました。

報告対象期間

2011年度(2010年12月1日～2011年11月30日)

期間中に発生した重要な変化

「ニッケブランド」としての特殊系の積極的な開発・拡販をめざして、柔軟な人員配置と機動的な生産体制による生産性の一層の向上や燃糸技術の集約・強化を目的に、尾州ウール株式会社と日誠毛織株式会社を合併しました。

発行日、前回発行日、次回発行予定

発行日：2012年2月24日

前回発行日：2011年2月24日 次回発行予定：2013年2月

準拠したガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2007年版)

作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室

大阪市中央区瓦町三丁目3番10号

Tel.06-6205-6658 Fax.06-6205-6653

主な企業情報

企業情報 会社案内、有価証券報告書、

ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境報告書

お問い合わせ先 ニッケ 経営戦略センター 法務IR広報室

Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

E-mail : webmaster@nikke.co.jp

企業情報に関するご意見・ご質問は、連絡先をお聞きした上で関係部署から返答いたします。(返答は後日になる場合もあります)

【免責事項】本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する予測・予想・計画も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

Contents

“人と地球に「やさしく、あったかい」 企業グループ”となるために

特集 グループ全社をあげて

1 真夏の節電対策に取り組みました
..... 5



特集 地球環境保全のために

2 廃棄物・環境リスクを低減しました
..... 7

トップメッセージ.....	3
マネジメント.....	4
環境経営の取り組み.....	9
国内繊維事業における環境保全活動.....	12
ショッピングセンター事業における環境保全活動.....	22
社会貢献活動.....	23
ステークホルダーへの責任.....	25
ニッケグループ各社の取り組み.....	28

トップメッセージ

かけがえのない地球を守るため、
環境保全活動に取り組み、
信頼される企業をめざして



昨年の東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして

ニッケは1896年の創業以来、環境にやさしい天然素材であるウールを社会に提供してきました。そして、「人と地球にやさしく、あったかい企業グループ」であることを経営理念に掲げて、人間家族や地域社会への貢献にも力を注いでいます。

「21世紀は環境の世紀」と言われ、持続可能な発展を考えると、地球温暖化の防止・循環型社会の構築・生物多様性の保全など環境保全は重要な活動となっています。かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任であると考えています。

そのため、地球環境保全を企業経営における最優先課題と位置づけ、「ニッケグループ地球環境委員会」を組織して、省エネルギー・CO₂排出量の削減・廃棄物最終処分量の削減など5項目の数値目標を掲げてグループ全体で地球環境の保全に取り組んでいます。

信頼されるニッケグループへ

企業が持続的に成長・発展するためには、お客様・株主様・取引先様・社会といったステークホルダーの皆様からの信頼を得ることが不可欠です。その信頼の基盤は、ステークホルダーの皆様に対して「誠実な経営」であることと、コンプライアンス（法令遵守）のレベルを超えて「倫理的に行動すること」であると考えています。

ニッケグループでは企業倫理の確立を図ると同時に内部統制・リスク管理・人材育成に対する取り組みの強化と地域社会への貢献を通して企業価値を高めていきたいと考えています。

本報告書は2011年度に推進したニッケグループの環境への取り組みと社会的責任への取り組みについてまとめたものです。本報告書をご覧いただき、ニッケの取り組みを理解していただくとともに皆様からご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

2012年2月

ニッケグループ代表
取締役社長

佐藤光由

経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、わたしたちは
情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

マネジメント

コーポレート・ガバナンス

ニッケは、経営の効率化、透明性を向上させ、ステークホルダーの期待に応えながら企業価値の増大を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

コーポレート・ガバナンス体制

ニッケは、取締役会および監査役会で業務執行を監督・監査する「監査役設置会社」として、「経営監視の仕組み」と「最適な経営者を選定する仕組み」の構築に努めています。

2004年にはアドバイザリーボード(社外有識者の会議体)を設置し、経営者の指名・報酬に関わる業務の確立と、ボードメンバーによる経営の監視およびアドバイスを取り入れる仕組みを導入しました。

また2006年には執行役員制度を導入し、経営の意思決定・

● コーポレート・ガバナンス体制



監督機能と業務執行機能の分担を明確にし、業務執行機能の強化を図りました。そして取締役会をスリム化し、社外取締役を加えて透明性のある経営を推進しています。さらに、業務執行機能の強化を図るために、執行役員・常勤監査役・各事業部門長およびグループ本社部門長などから構成されたグループ経営会議を開催しています。

内部統制システムの構築

金融商品法が改正され「信頼ある財務報告作成」のために内部統制報告制度が実施されてから3年間が経過しました。

2011年度は昨年度と同様に「重要な事業拠点」として、ニッケ(株)ナカヒロ・アカツキ商事(株)・(株)ゴーセン・アンビック(株)・佐藤産業(株)を対象としました。上記6社を含むすべてのニッケグループ会社が真摯に取り組み、監査法人から「内部統制報告書は、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。」との監査報告書を昨年度に引き続き受領しました。

今後とも内部統制システムの継続的な改善に努めます。

コンプライアンス・リスク管理

「ニッケグループリスク管理委員会」を中心に、ニッケグループの倫理・法令の徹底・遵守をはじめとして企業を取り巻くあらゆるリスクに対応しています。

コンプライアンス・リスク管理体制

ニッケグループでは、2004年に「ニッケグループ企業倫理委員会」を設置しました。「企業倫理規範」と「企業行動基準」を制定するとともに、これらを記載した「企業倫理ハンドブック」を全社員に配布して徹底を図っています。

2008年12月には、「ニッケグループ企業倫理委員会」を「ニッケグループリスク管理委員会」に改組し、リスク管理上必要な重点テーマを設定して活動しています。

● ニッケグループリスク管理委員会体制



2011年度は、特に、東日本大震災を受けて、BCP(事業継続計画)と大規模災害時の初動対応の見直しを実施しました。

2011年度においても、報告すべき大きな法令違反や企業倫理問題は発生していません。

公益通報者の保護

ニッケグループでは、「企業倫理規範」に関わる事柄で、職場内だけでは解決が難しい場合や、上司に相談することが必ずしも適切でない事項について、社員が相談できる窓口を「企業倫理ハンドブック」・社内イントラネットなどで周知しています。

窓口は2つのルートを設け、相談者のプライバシーを厳重に守る体制としています。2011年度の利用は人間関係問題を中心として9件ありましたが、ほぼ円満に解決しています。

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”となるために

グループ全社をあげて 真夏の節電対策に取り組みました

2011年3月11日、未曾有の大震災が東日本を襲い、原子力発電所の事故を契機に全国で電力供給不足が問題となりました。これら節電要請に応えるべく、ニッケグループでは社員一人ひとりの地道な努力を積み重ねて、ピーク電力の低減と省エネルギーに取り組みました。

グループ全体で

最大電力を抑制するため 各地で節電対策を実施しました

2011年夏、ニッケグループは節電対策を企業の社会的責任と捉えて、昼から午後にかけて最大になる電力使用の抑制に努めました。

ショッピングセンターや事務所ビルでは、エアコン室外機への水噴霧や照明の間引きを実施し、製造拠点では休日の振替を行いました。その結果、最大電力を東京電力管内では約20%、中部電力管内では約15%、関西電力管内では約10%削減できました。

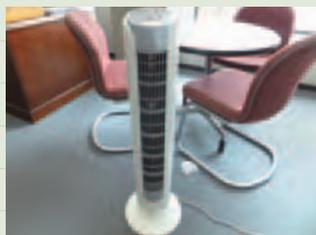


オフィスでの節電事例 ～ニッケ本社～

最大電力を20%以上削減しました

最大電力を対前年比15%削減することを目標に、「照明の間引き」「エアコン更新」「エアコン室外機への水噴霧」を実施しました。また社員に節電への協力を呼びかけ、「スリムファン設置による空調温度設定1℃アップ」「退社時のOA機器の電源OFF」を徹底しました。

これらの節電対策の結果、7月～9月の最大電力を20%以上削減することができました。



みんなで節電に
取り組みました



地域とともに

地域全体の節電のために 「節電避暑地キャンペーン」を実施しました

ニッケコルトンプラザでは、市川市と共同で「節電避暑地キャンペーン」を実施しました。

これは、地域の皆様に日中は家庭の電気・エアコンを消して、市内の公共施設や民間の商業施設などに行って涼んでもらおうと呼びかけるキャンペーンです。多くの方に参加いただけるよう、ニッケコルトンプラザでは、館内のベンチを増設し、ゆっくりと買い物してもらえる環境を整えました。また、子どもたちが遊びながら節電に取り組んでもらえるよう、スタンプを集めてお菓子がもらえるスタンプラリーを開催したり、絵本パラダイスやキッズ迷路・キッズ遊園地などのイベントを実施したりしました。

今回の取り組みは、多くのマスコミでも取り上げていただきました。お客様の期待を裏切らないよう、さらに快適な環境を提供していきたいと考えています。



Column

東日本大震災の被災地・被災者への支援活動を実施しました

3月11日に発生した東日本大震災において、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。早期復興を心よりお祈り申し上げます。

ニッケグループでは、被災地の復興と被災された皆様の救済に役立てていただくため、義援金として1千万円を寄付しました。そのほか、支援物資として、寝具約5,000点、作業着上下800着、被災地の小売店向けスポーツ用品やスポーツウェア、携帯電話充電器とバッテリー約60点、「ニッケ ピュアハートエッセイ/イラスト大賞作品集」300冊などを提供しました。

また各事業所では募金活動を実施しました。



ニッケパークタウンでの募金活動



段ボールに詰められた支援物資

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”となるために

地球環境保全のために 廃棄物・環境リスクを低減しました

染色・洗浄・乾燥などさまざまな工程がある繊維製品の製造事業所と、
お客様の憩いの場でもあるショッピングセンター。
それぞれの事業活動における環境負荷を可能な限り低減するため、事業所の特性に応じた
環境保全活動に継続的に取り組んでいます。

印南工場

排水処理汚泥の発生量を24%削減しました

印南工場の廃棄物の約50%は排水処理装置から発生する汚泥です。現在は
全量をセメント原料としてリサイクルしています。さらに環境負荷を低減するため、
汚泥発生量自体を低減する対策に取り組みました。

汚泥には処理に必要な薬品(凝集剤)が多く含まれてい
ます。汚泥を減らすには、その添加量を削減することが
不可欠であると考え、テストを繰り返し、新しい凝集剤への
切り替えと薬品添加量の見直しを図りました。その結果、
汚泥を24%削減することに成功しました。



排水処理汚泥



汚泥はセメント
原料としてリサイクル

Column

再生可能エネルギーの活用をスタートしました

化石燃料の枯渇や地球温暖化防止などへの対策と
して、太陽光や風力、水力など再生可能エネルギーに
注目が集まっています。

2011年度、再生可能エネルギーを利用するために、
ニッケはマイクロ水力発電機を印南工場に設置しまし
た。マイクロ水力発電は、ダムなどの大規模な水源を
必要とせず、ある程度の水量があれば比較的簡単に
設置できるというメリットがあります。印南工場では、
排水処理装置の放流口に設置しました。落差3mの
排水処理水の力で水車を回し、発電しています。

発電した電気は、外灯や換気扇に使用しています。



各拠点で
工夫しています



一宮事業所

高効率機器を導入して省エネを図りました

一宮事業所では、省エネおよびCO₂排出量の削減のため、2010年の梳毛課に続いて、2011年は紡績課のガス吸収式冷凍機を高効率タイプに更新しました。この冷凍機は、「二段蒸発吸収サイクル」という方式を採用したもので、放熱ロスや高温再生器での加熱に必要な熱量を減少させ、高効率化を達成できた省エネ機器です。

2台の冷凍機の更新により、冷凍機での都市ガス使用量を約22%削減できました。



高効率なガス吸収式冷凍機

岐阜工場

廃液の漏洩防止対策を強化しました

岐阜工場では、染色・洗浄工程の排水を廃液処理装置で適正に処理し、河川に放流しています。その処理工程で発生する排水汚泥は一旦、タンクに貯留し、その後脱水処理しています。

リスク管理の観点から、万が一、機器の故障などのトラブルが発生しても、外部への流失を防止するため、貯留タンクを更新し、最終の放流口にも漏洩防止対策を施しました。



放流口に防液堤を設置

廃液濃縮槽

ニッケパークタウン

商業施設にも「環境」の視点が求められています

近年、商業施設の開発・運営においても「環境」の視点が不可欠となり、お客様への快適な空間とサービスの提供に加え、地域社会や環境への負荷軽減が求められるようになりました。

ニッケパークタウンでは「壁面緑化(ゴーヤの植樹)による空調電力の削減」「LED照明による省エネ」などの環境対策に取り組むことで、7月~9月の最大電力を前年比で約5~8%削減できました。



壁面緑化

LED照明



環境経営の取り組み

環境に関する基本姿勢

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、わたしたちは
情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

行動方針

環境保全活動の推進	CO ₂ 排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。
環境マネジメントシステムの確立	ISO14001の認証を製造事業所3カ所およびグループ会社7社が取得しています。この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。
環境規制の遵守	環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO₂排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生

環境マネジメント

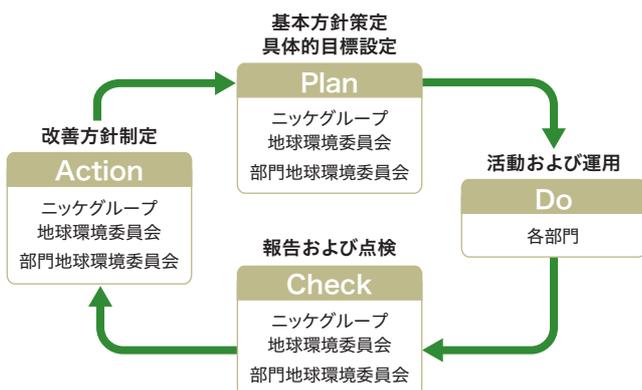
「ニッケグループ地球環境委員会」のもと、“PDCAサイクル”を重視した環境マネジメントシステムの継続的な運用によって、環境保全活動を推進しています。

環境マネジメントシステム

ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制を構築しています。「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社などに設置した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

● 環境保全活動推進フロー



● 環境マネジメント体制

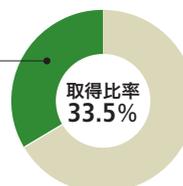


ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、製造事業所3カ所およびグループ会社7社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001 認証を取得しています。

● ニッケグループ全社員に占めるISO14001 認証取得事業所従業員の割合

認証取得従業員数:1,495名※
グループ従業員数:4,466名※
※非連結グループ会社を含む



環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。環境対策投資とは公害防止設備や省エネ設備への投資であり、公害防止コストは公害防止設備の維持費や各種分析費など公害防止ランニングコストのことで、

今後は経済効果なども集計することで、効果的・効率的な環境経営の推進に役立てたいと考えています。

● 環境会計データ

(千円)

	2007	2008	2009	2010	2011
環境対策投資額	91,223	149,392	155,354	191,123	135,959
公害防止コスト	211,863	199,822	173,492	168,843	176,130
汚染負荷量賦課金	5,316	4,980	4,718	3,833	3,049

環境監査と結果

ISO14001 認証取得事業所では、年1回外部監査機関による審査を受けています。2011年度はニッケ3事業所合計で不適合0件、観察事項19件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。またニッケの3事業所で合計76名の内部監査員がおり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2011年度は不適合3件、観察事項25件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、マニュアルや規定書を改訂する場合があります。

環境リスク管理体制の整備

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、事業所ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



廃油漏出訓練(印南工場)

環境に関する法令遵守状況

2011年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。なお、過去3年間も同様に重大な違反・罰則・訴訟はありません。

環境影響の監視・測定

ニッケの3事業所では、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。また、所在する地域の排水水質規制を上まわる自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

各事業所では、敷地の境界で騒音などを定期的に測定し、騒音が心配される場合は吸音材や遮音材を貼り付け、周辺の生活環境の保全に努めています。

2011年度は、岐阜工場の西側の塀際付近で「臭気がある」との苦情があり、調査の結果、廃液貯槽から発生しているものと判明しました。改善策として攪拌用ブロワーを24時間運転にすることで、臭気を抑制しました。対策実施後は苦情はきていません。

環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。

たとえばニッケの3事業所では環境方針の周知を図るとともに、環境マニュアルや環境に関する作業標準の教育などを実施しています。この環境教育は、各作業が有する著しい環境への影響、それを改善した場合の環境上の利点、環境マネジメントシステムの運用にあたっての役割と責任、作業標準から逸脱した場合に予想される結果などを啓蒙する機会にもなっています。

環境コミュニケーション

印南工場では、地域の皆様との相互理解を深めるために、毎年2回、地域連絡会を開催しています。この連絡会には周辺6町内会の代表者にお越しいただき、工場や会社の状況を報告するとともにご要望を伺うほか、工場内を見学していただく場合もあります。

兵庫県、加古川市、印南工場間で環境保全協定を締結しています。加古川市内の8社の企業も同様に協定を締結しており、毎年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて協議会を開催し、事業所ごとに環境情報を報告しています。



環境経営の取り組み

環境マネジメント



ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を、以下の事業所とグループ会社で取得しています。

2011年度にISO14001を認証取得したグループ会社はありません。

● ISO14001認証取得事業所一覧(2011年11月末時点)

	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事株式会社	2001年 9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンビック株式会社	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業株式会社	2001年11月	JEO129D
株式会社ナカヒロ	2002年 6月	E465
上海高織製紐有限公司	2004年 3月	01 104 031654
株式会社ニッケ機械製作所	2004年11月	1664297
株式会社ゴーセン	2005年 4月	JQA-EM4701
一宮事業所	2007年12月	JMAQA-E724

● 環境保全活動のあゆみ

1993	●「地球環境委員会」を設置
1997	●ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ●PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」商品を発売開始
1998	●ウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	●「環境自主行動計画」を策定 ●「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	●印南工場でISO14001を認証取得
2001	●岐阜工場でISO14001を認証取得 ●アンビック(株)でISO14001を認証取得 ●アカツキ商事(株)でISO14001を認証取得 ●佐藤産業(株)でISO14001を認証取得
2002	●(株)ナカヒロでISO14001を認証取得
2004	●(株)ニッケ機械製作所でISO14001認証取得 ●上海高織製紐有限公司でISO14001を認証取得
2005	●環境報告書発行開始 ●(株)ゴーセンでISO14001を認証取得
2007	●一宮事業所でISO14001を認証取得



国内繊維事業における環境保全活動

環境保全中期計画

ニッケグループ国内繊維事業は、2008年12月に策定した「環境保全中期計画(2009～2011年度)」の達成に向けて全社が一丸となって各種施策に取り組みました。

● 2011年度の目標と実績

目的	内容	2011年度の目標	2011年度の実績	自己評価	2012年度の目標	報告ページ
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2008年度比	97.0%以下	102.7% 101.0%(生産量原単位)		2011年度比 99.0%以下	▶ P.15-16
CO ₂ 排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2008年度比	97.0%以下	102.2% 100.2%(生産量原単位)		2011年度比 99.0%以下	▶ P.15-16
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2008年度比	97.0%以下	74.7%		2011年度比 99.0%以下	▶ P.15-16
PRTR法対象物質 使用量の削減 <small>※ 右記の年度は、行政への報告 集計期間(4月～翌年3月)に対応</small>	工場出荷額当たり原単位 2007年度比	97.0%以下	72.9%		2010年度比 99.0%以下	▶ P.17-18
グリーン購入の促進 <small>※ 製造事業所3カ所および 本社・東京支社での取り組み</small>	グリーン購入適合品比率	95.0%以上	94.2%		95.0%以上	▶ P.14

自己評価の基準 目標を十分に上まわって達成した 目標を達成した 目標は達成できなかったが目標に近づいた 目標に向けた改善ができなかった

報告対象事業所

国内繊維事業：■ 製造事業所3カ所 ● オフィス8カ所 ▲ 国内グループ会社(5社)

ショッピングセンター事業：◆ ショッピングセンター2カ所



印南工場
兵庫県加古川市

金屋ニット(株)
京都府福知山市
(株)ゴーセン天神工場
兵庫県加東市
ニッケパークタウン
兵庫県加古川市

アンビック(株)
兵庫県姫路市

仙台営業所



岐阜工場
岐阜県各務原市

ニッケコルトンプラザ
千葉県市川市

東京支社

九州営業所

広島営業所

神戸本店

大阪本社

名古屋営業所



一宮事業所/尾州ウール(株)
愛知県一宮市

大成毛織(株)
愛知県一宮市



国内繊維事業における環境保全活動

環境負荷の全体像

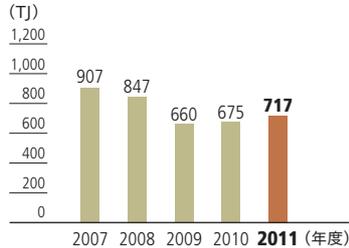
原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO₂や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。

INPUT

エネルギー

電気…………… 41,548MWh
 都市ガス…………… 6,942千m³
 A重油…………… 140kL

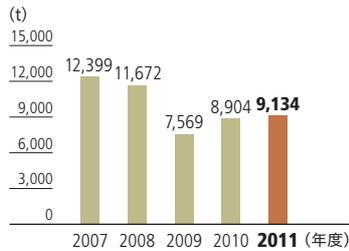
● 総エネルギー使用量



原材料

羊毛…………… 3,513t
 合成繊維…………… 3,447t
 染料・薬剤…………… 2,174t

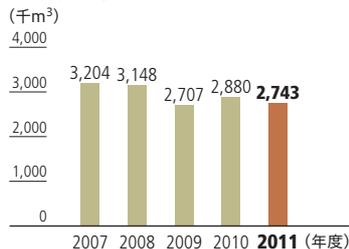
● 総物質投入量



水資源

上水…………… 41.9千m³
 工業用水…………… 499千m³
 地下水…………… 2,202千m³

● 水資源使用量



調達



オーストラリアなどから羊毛を調達

設計・商品開発

製造

染色



トップ染
糸の原料となるトップを染色

紡績



精紡
精紡機で糸にする

製織



織絨
織機で布に織り上げる

整理



乾燥
洗浄して汚れを落とし乾燥

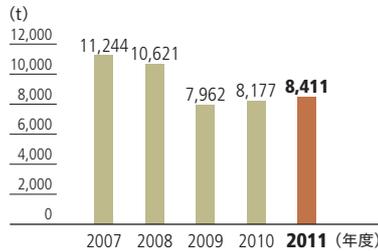
検査



検反
反物の品質を厳しく検査

商品出荷量…………… 8,411t

● 商品出荷量



流通

- 商社
- 販売店
- アパレルメーカー



ユーザー

- 個人
- 企業
- 学校
- 官公庁



リサイクル

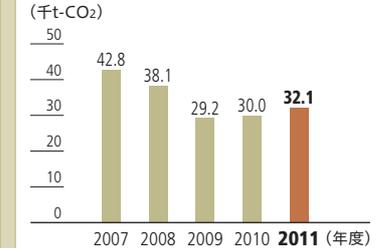


OUTPUT

大気への排出

CO₂…………… 32.1千t-CO₂
 SOx…………… 0.36t
 NOx…………… 4.69t
 ばいじん…………… 0.222t

● CO₂排出量

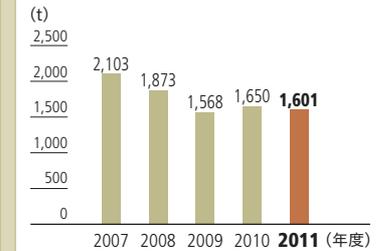


リサイクルと廃棄

廃棄物発生量…………… 1,601t

リサイクル量 1,296t
 最終処分量 304t

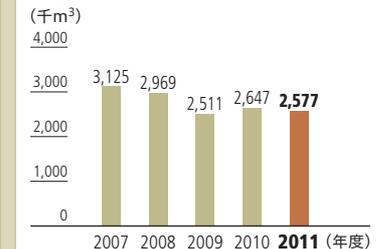
● 廃棄物発生量



水系への排出

排水…………… 2,577千m³
 COD…………… 32.8t
 BOD…………… 15.9t
 SS…………… 15.9t

● 排水量



グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入するグリーン購入の取り組みを促進しています。

グリーン購入の促進

グリーン購入適合品比率は「95.0%以上」という目標に対して「94.2%」と目標未達でした。ペーパーレス化により、適合品比率の高い事務用紙の購入量が減少したことや省エネ型蛍光灯への切り替えが概ね完了し、グリーン購入対象品の購入が減少したことが影響しています。

文具類の中には、グリーン購入に該当する物品が存在しないものがあり、適合品比率を上げることは難しい状況ですが、購買品・調達先を見直して適合品比率を改善していきます。

● グリーン購入比率

(%)

	2007	2008	2009	2010	2011
紙類	95	93	95	98	96
文具類	68	69	65	71	75
機器類	99	98	99	99	100
OA機器	99	100	100	100	100
照明 照明器具	100	100	100	100	99
照明 蛍光灯	100	98	92	99	94
合計	93	94	93	92.8	94.2

オフィスでの取り組み

ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門での環境データを集計して報告しています。

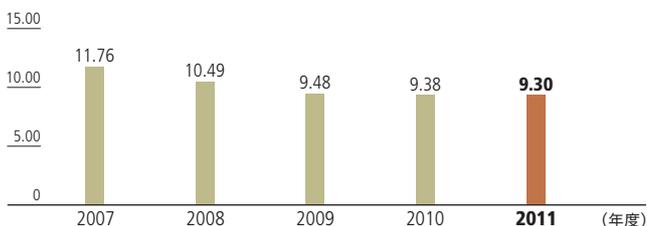
オフィスにおける環境保全

空調温度の夏期28℃、冬期20℃管理の徹底や、不要照明の消灯、昼休みの消灯を社員に周知徹底することで、電気使用量の削減に取り組んでいます。これらの取り組みに加えて、2011年度は、本社ビルの空調設備を2つのフロアで更新し、省エネを図りました。また昨夏は電力不足のため夏期節電を徹底したことにより、電気使用量も大きく減少しました。

今後も計画的に空調設備を更新し、省エネ対策を推進していきます。

● オフィスでの水道使用量

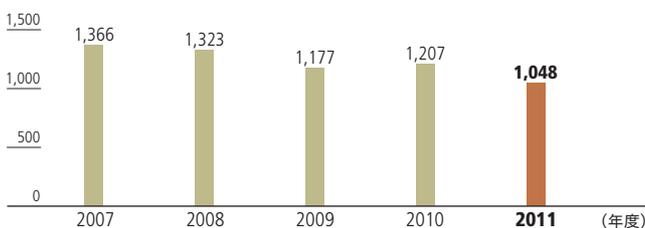
(千m³)



水道使用について各個人に節水をPRし、水漏れ箇所についても迅速に修理対応することで、前年度比0.8%削減することができました。

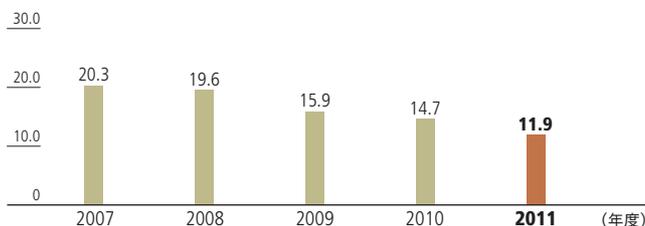
● オフィスでの電気使用量

(MWh)

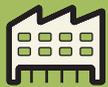


● オフィスでのガス使用量

(千m³)



ガス使用量は、引き続き食堂部門での調理方法を工夫することで、前年度比19.4%削減することができました。



国内繊維事業における環境保全活動

地球温暖化防止の取り組み

省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位とCO₂排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直しなどに取り組んでいきます。

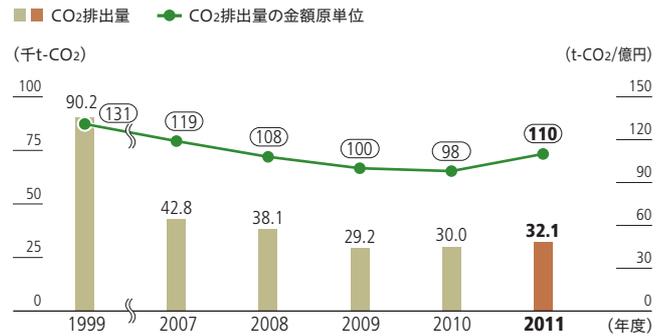
● 総エネルギー使用量と原単位



総エネルギー使用量原単位は「2008年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は「102.7%」となり目標を達成できませんでした。

金額原単位では増加しましたが、生産量当たりのエネルギー使用量は対前年度比で減少しています。それは省エネ機器の導入や生産設備の効率的な運転を推進したことに加え、保温カバーの取り付けや蒸気回収など無駄を省く取り組みを推進したことが主な要因です。

● CO₂排出量と原単位



CO₂排出量原単位は「2008年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は「102.2%」と目標を達成できませんでした。

総エネルギー使用量と同様に、金額原単位では増加しましたが、生産量当たりの原単位は対前年度比で減少しています。それは各製造事業所での省エネ対策により総エネルギー使用量原単位を減少することができたことが、CO₂排出量原単位減少の主な要因です。

省資源・リサイクルの取り組み

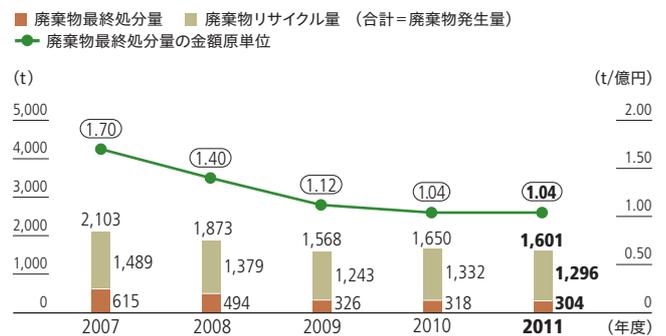
分別廃棄を徹底することで廃プラスチックのリサイクルを推進しています。

● 水資源使用量と原単位



使用する水資源には上水道・工業用水道・地下水があります。節水型の機器や水資源の循環利用などによって、水資源使用量の削減に努めた結果、原単位が対前年度比で0.2%減少しました。

● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位



排水汚泥の全量リサイクルが完了し、さらに薬剤の見直しにより汚泥の発生量も抑制しました。また廃プラスチックなどのリサイクル率も向上し、最終処分量原単位は2008年度比74.7%と目標を大幅に達成できました。

今後、さらにリサイクル率向上に取り組めます。

地球温暖化防止の取り組み

省エネルギー活動の推進

総エネルギー使用量原単位は「2008年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は102.7%となり目標を達成できませんでした。

金額原単位では増加しましたが、生産量当たりのエネルギー使用量は前年度と比較して減少しています。これは省エネ機器の導入や生産設備の効率的な運転を推進したことに加え、保温カバーの取り付けや蒸気回収など無駄を省く取り組みを推進したことが主な要因です。

また省エネ会議や省エネパトロールなど社員の省エネ意識を高めるための啓蒙活動も積極的に実施しました。

温室効果ガス排出量の削減

2011年度は、各事業所で省エネルギー対策を実施しましたが国内繊維事業のCO₂排出量原単位は2008年度に比べて2.2%増加しました。

CO₂排出量は、京都議定書に定める基準年1990年と比べて国内繊維事業では64.4%減、ショッピングセンター事業を加えると54.6%減となりました。

省資源・リサイクルの取り組み

総物質投入量の低減

繊維製造事業の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。

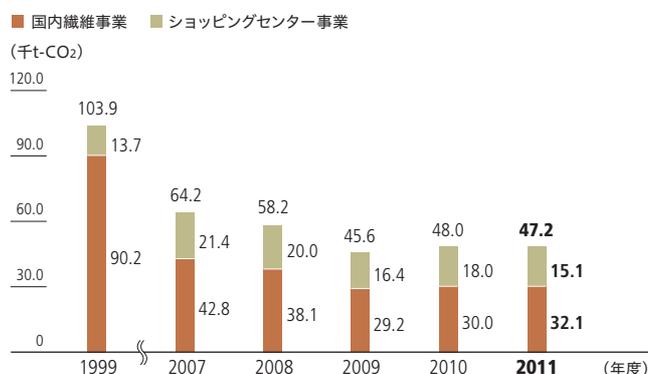
これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

水資源使用量の削減(詳細)

2011年度の水資源使用量は2008年度比で12.9%減少しましたが、原単位は5.7%増加しました。これは、繊維製造工場では生産量が減少しても一定量の冷却水、加湿用の空調用水が必要であり生産量に比例して水使用量を減らすことができないためです。

今後は染色・洗浄工程での節水対策の推進、空調用水および冷却水の循環利用をさらに向上させ、水資源使用量の削減に努めます。

● CO₂排出量(国内繊維事業とショッピングセンター事業の合計)



輸送でのCO₂排出量の削減

ニッケグループでは輸送効率を向上させる取り組みを推進しています。

2011年度は尾州ウール(株)の一宮事業所内への移転が完了し、出荷製品や原材料の輸送距離を短縮できました。

また、できるだけ効率よく輸送することで、トラック便数を減らしました。

物質の循環利用

製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産物を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムを確立しています。

また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間4トン強で、これら容器包装材は日本容器包装リサイクル協会に委託して、リサイクル(再商品化)しています。

廃棄物の削減(詳細)

廃棄物最終処分量原単位は「2008年度比97.0%以下」の目標に対して、実績は74.7%と大幅に改善できました。

排水処理装置から発生する汚泥の全量リサイクルが完了したことと、廃プラスチックなどのリサイクル率も向上したためです。

さらに廃棄物の分別を徹底することにより、リサイクル率の向上をめざします。



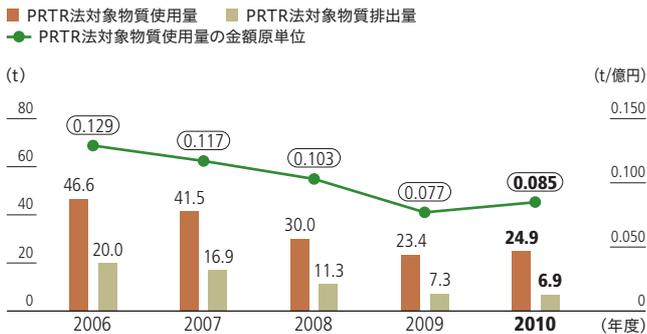
国内繊維事業における環境保全活動

化学物質の削減と管理

PRTR法※対象物質の使用量が多い薬剤から対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了し、さらに少量使用している物質においても、試験を進めて切り替えていきます。

※PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

● PRTR法対象物質の使用量・排出量と使用量原単位



注) PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県経由で経済産業省に届け出ます。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えました。その結果、2007年度比で27.1%の減少となり、目標を達成できました。

旧尾州ウール工場跡地での土壌汚染に関する調査について

2011年4月、グループ会社である尾州ウール(株)の工場跡地より、指定基準を超過する第二種特定有害物質である六価クロム化合物が検出され、7月に愛知県より要措置区域の指定を受けました。

県の指導に基づき、指定基準に適合しない箇所の土壌の掘削除去作業を実施しました。実施にあたっては、近隣住民の皆様にご迷惑をおかけしないよう配慮しました。汚染土壌は適正に除去し、10月には、県より要措置区域の指定の解除を受けました。

大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁などの公害対策については、特に周辺住民の方に迷惑をかけないように、確実に公害防止設備の定期保全を実施し、排ガスや水質の定期分析および管理を継続しています。

大気汚染物質の削減

ニッケグループから排出されるSOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOxの排出はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場、一宮事業所、岐阜工場とアンビック(株)、尾州ウール(株)は、天然ガスを燃料とするボイラを使用しており、SOx排出量をゼロにしています。

またNOx・ばいじんは「大気汚染防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理しています。

排水の管理

工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流しています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を下まわるように管理しています。

化学物質の削減と管理

PRTR法対象物質の使用量削減(詳細)

PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2008年度比97.0%以下」とした目標に対して、実績は「72.9%」と目標を大幅に達成しました。今後も、ニッケ3事業所では、PRTR法対象物質を含有する化学物質に対して、対象物質を全く含有しないものへの切り替えを進めていきます。

ダイオキシン類

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

PCB使用廃電気機器の適正管理

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「日本環境安全事業株式会社」にグループ全体で13台のPCB使用廃電気機器を処理登録しており、現在、処理順番を待っている状況です。処理が実施されるまでは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、適正に保管しています。

また、数mg/kg～数十mg/kgのPCBが混入した微量PCB汚染廃電気機器の問題については、製造年などから混入の可能性のある機器を特定し、絶縁油のPCB分析により汚染の有無を確認する作業を行っています。汚染が確認された機器は計画的に更新し、微量PCB汚染廃電気機器として適正に保管・処分します。

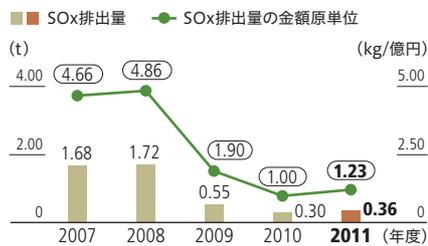
大気や水などの汚染防止

大気汚染物質の削減(データ)

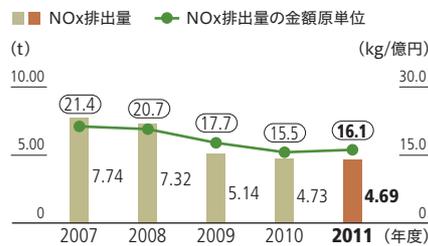
2011年度は、印南工場で昨年度に引き続き5台のガスボイラを最新型のガスボイラに更新しました。

一部のグループ会社ではボイラ燃料が重油であるため、今後、都市ガスへの転換を進めていきます。

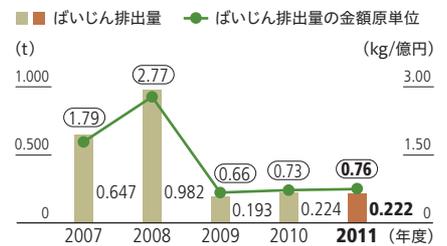
● SOxの排出量と原単位



● NOxの排出量と原単位



● ばいじんの排出量と原単位



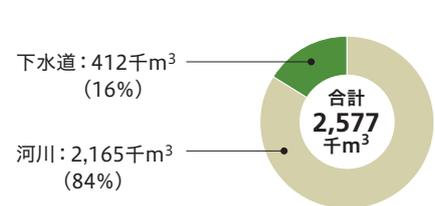
排水の管理(データ)

生産量の増加により負荷量も増加しました。原単位の増加は生産量当たりの金額減少が主な要因です。

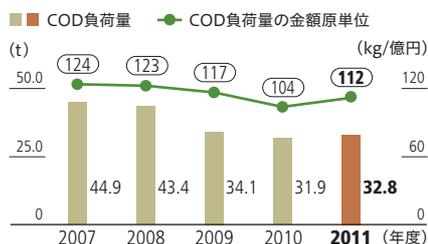
● 排出量と原単位



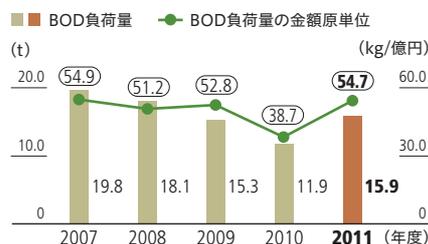
● 排水の排出先別内訳(2011年度)



● COD負荷量と原単位



● BOD負荷量と原単位



● SS負荷量と原単位





国内繊維事業における環境保全活動

環境に配慮した商品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな商品を製造・販売するほか、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の製造、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

ニッケ

ニッケ フリップフロップ加工

汚れにくく、汚れが落ちやすい新加工

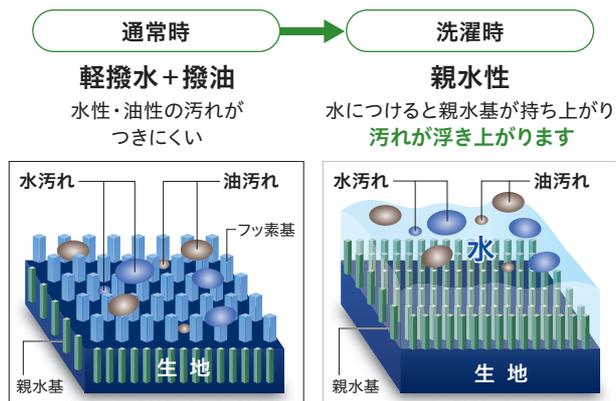
着用中は水や油性の汚れをはじき、洗濯時には水に濡れやすく変化することで汚れが繊維から離れやすくなる加工を開発しました。

通常では繊維表面が軽い撥水性と撥油性を持っており、水性・油性の汚れがつきにくいので、洗濯回数を減らすことができ、環境にやさしく経済的です。

洗濯時には繊維表面が親水性(水に濡れやすい性質)に変化するため、汚れが繊維から離れやすくなります。そのため洗濯時間の短縮や洗剤の使用量を減らすことができます。

また軽い汚れの場合は、シャワーで汚れや臭いを落とすことができるため、手入れが簡単です。

フリップフロップの仕組み



水だけでこれだけ汚れが落ちます

洗濯試験	滴下直後	加圧後	洗濯後
コーヒー (加工付き)			
醤油 (加工付き)			

ニッケ

シトラス デオ

天然由来の抗菌防臭加工

グレープフルーツの種子から抽出された物質(GSE)は脂肪酸・アスコルビン酸・フラボノイドなどからなる有機複合物です。GSEには発芽まで種を守るための抗菌作用があります。このGSEをウールおよびウール混織物に固着する抗菌防臭加工を開発しました。汗や汚れに繁殖して、臭いの原因となる細菌を抑制します。

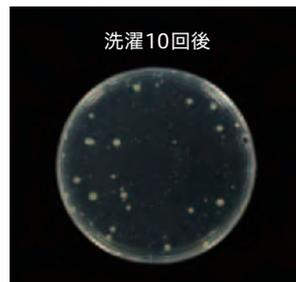
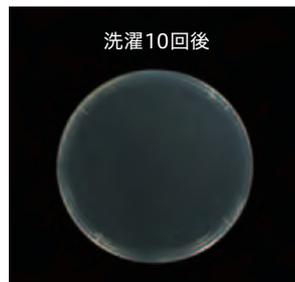
GSEは食品添加物や化粧品添加物としても使われている肌にやさしい安全な物質で、洗濯しても効果が持続します。

臭いの元となる細菌の増殖を抑制します
洗濯しても、効果が持続します

【細菌増殖試験】

シトラス デオ

未加工



試験方法：JIS L 1902 菌液吸収法
供試菌：黄色ぶどう球菌
洗濯方法：JIS L 0217 103法

アンビック

ADMIREX™

焼却炉から排出される有毒な排ガス処理に貢献

アンビック(株)は、幅広い産業分野に資材用のフェルト・不織布を提供しています。アンビック(株)は、排ガス処理装置の一つであるバグフィルターの粉塵を捕集するろ布(フィルターバグ)用フェルトを国内で初めて市場に送りだして以来、さまざまなニーズに応える商品開発・技術開発に取り組んできました。

「ADMIREX™」はダイオキシンの低減や、HCl(塩化水素)、SOxなどの有害ガスの排出量の削減を可能にするフィルターバグです。都市ゴミや産業廃棄物といった焼却炉の集塵装置をはじめ、特に微粒子ダストの多いガス化溶融炉や灰溶融炉の排ガス処理において欠かせないフィルターバグとなっています。



バグフィルター「ADMIREX™」



焼却炉などの排ガス処理に「ADMIREX™」は使用されています。

ゴーセン

バイオガット® ナチュラル

地球にやさしい環境適合性素材

(株)ゴーセンは、ラケットスポーツ用品や釣糸、衣料用縫製糸・産業用加工糸を製造・販売しています。

(株)ゴーセンが開発したソフトテニス用ラケットのガット「バイオガット® ナチュラル」は、原料の90%以上に植物由来のポリ乳酸を使用した世界初のバイオガットです。植物由来の原料を使うため、焼却しても商品としてCO₂排出量を削減できます。

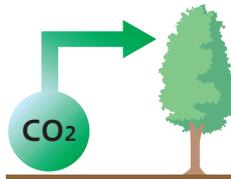
土中では微生物により水とCO₂に分解されるため、廃棄物の削減にも貢献します。また、腕・肘に負担のかからないソフトな打球感、優れた反発力があります。



原料にはエコプラスチックであるポリ乳酸を90%以上使用



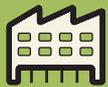
焼却しても、化石燃料を原料とする商品と比べてCO₂排出量を削減できます。
(原材料の植物が生長時にCO₂を取り込んでいたため)



微生物によって土中で水とCO₂に分解するため、廃棄物の削減に貢献します。

分解

微生物



国内繊維事業における環境保全活動



環境に配慮した商品

再生繊維を用いた「エコロジア企画」

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

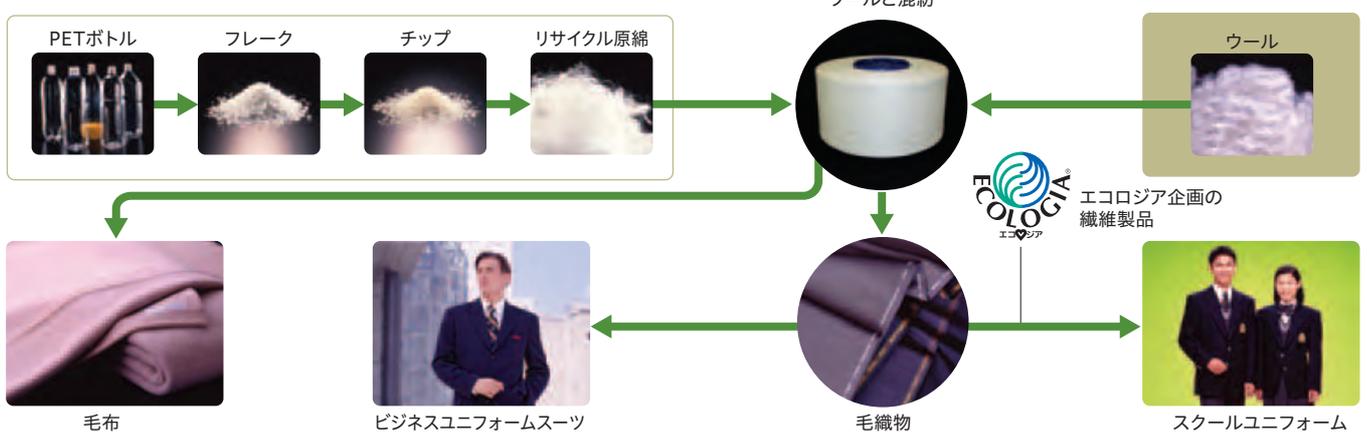
これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの商品へと加工して、再び社会へ送り出しています。

エコマーク取得商品

エコマークは、生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品・サービスに付けられる環境ラベルです。マークの使用については、(財)日本環境協会エコマーク事務局が管理しています。

商品類型ごとに設定されている厳しい認定基準を満たした商品のみエコマーク表示が許諾され、ニッケのエコマーク取得商品には、学生服用生地、ビジネスユニフォーム用地、毛布などがあります。

● エコロジア企画の仕組み



「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、商品回収・再生に向けた意識が高まってきています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ガイドーリミテッド、大東紡績(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

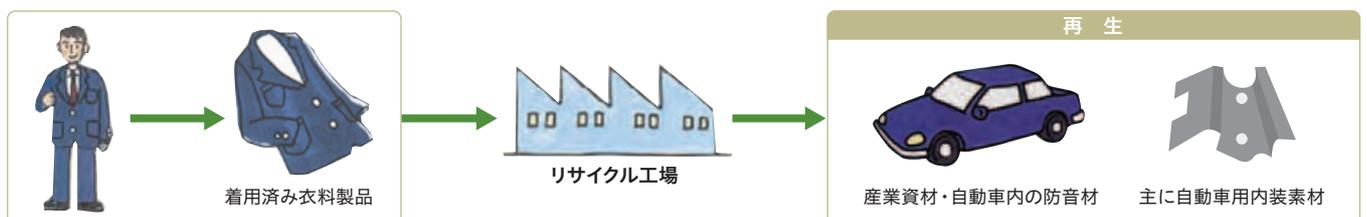
「エコネットワーク」の回収商品は、ウール100%と、ウールと他

繊維の複合素材による衣料製品(メンズスーツなどの一般衣料、スクールユニフォーム、ビジネスユニフォームなど)を対象としています。

「エコネットワーク」会員からの着用済み衣料は、専用袋で指定のリサイクル工場へ回収しています。これらの回収商品を産業資材などとして再生し利用することで、原材料の節減と廃棄物の減量を両立します。



● エコネットワークの仕組み





ショッピングセンター事業における環境保全活動

ショッピングセンター運営での取り組み

ニッケは国内2カ所で大規模なショッピングセンターを運営しています。地域の皆様に憩いの場を提供し、人々の交流を深めるとともに、地球環境にやさしいショッピングセンターをめざして設備を改善しています。

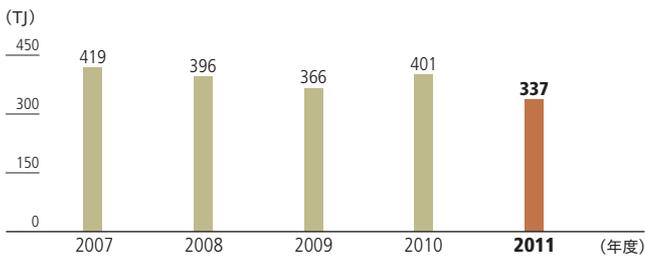
ショッピングセンターでの環境保全

2011年夏期は、節電に積極的取り組み、エネルギー使用量・CO₂排出量の削減を図りました。またお客様が歩行する通路にドライミストといった環境負荷の少ない冷房設備を運転するほか、ガラス窓のグリーンカーテンや屋上散水・屋上緑化などに取り組んでいます。ほかに空調室外機に散水設備を導入し蒸発潜熱(気化熱)を利用し使用電力の削減を図りました。

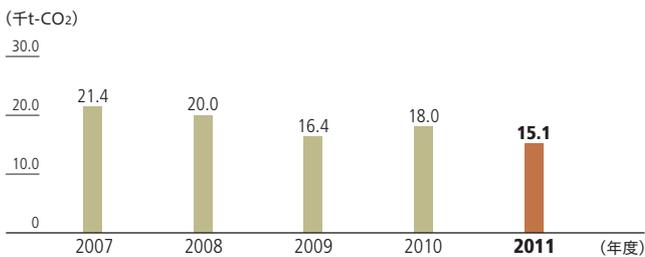


空調室外機の散水設備

● ショッピングセンターでの総エネルギー使用量



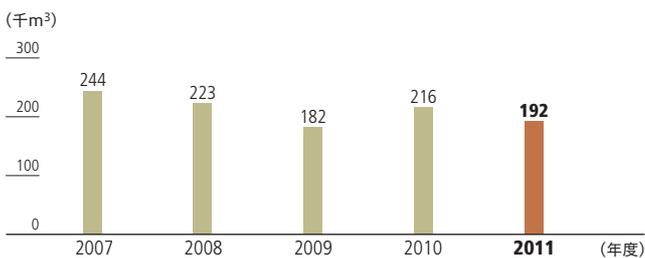
● ショッピングセンターでのCO₂排出量



● 用水使用量の削減

施設内のトイレ、洗面所には節水型の機器を導入し、水使用量の削減に努めています。

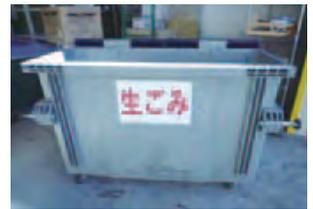
● ショッピングセンターでの水使用量



● 廃棄物の削減

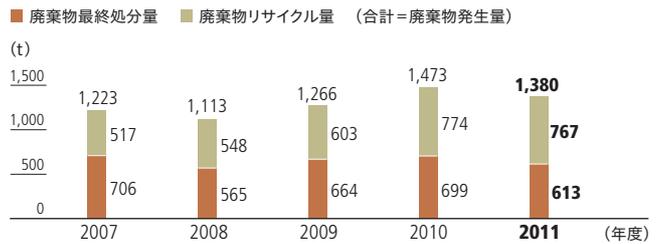
可燃ゴミ、紙くず、廃プラスチックなどにきめ細かく分別してリサイクル量を増やし、廃棄物処分量の減量に取り組んでいます。

剪定くずによるバイオネット(木の葉や枝を積み重ねてつくる昆虫や小動物のすみか)づくりや落ち葉のコンポスト化(堆肥化)にも取り組み、手造りの庭で再利用しています。



ゴミの分別ボックス

● ショッピングセンターでの廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



● 憩いの環境づくり

地域の皆様の憩いの場となるように、ニッケ鎮守の杜では、庭人さんの手入れにより植栽の管理をしています。四季咲き花木の鉢、休憩用のベンチを配置しています。

また、噴水設備から流れる小川は貯水池につながっており、貯水池で水を殺菌し循環使用しています。



ニッケ鎮守の杜の花壇

● 地域への情報発信

館内に設けたギャラリーでは、「環境保全」「交通安全」「防火」「省エネ」「防犯」などのポスター展を開催して、地域への広報活動に努めています。

また、特別支援学校の児童生徒の社会経験や地域との交流を目的とした「職場体験学習」の場を提供しています。



防犯ポスター展



社会貢献活動

スポーツ・文化への貢献

ニッケグループはスポーツ・文化支援事業を通じて、次世代をみつめた社会貢献活動を行っています。

「ニッケ全日本テニス選手権86th」に特別協賛

ニッケグループの事業と関わりのあるテニスおよびスポーツ振興に資するため、(財)日本テニス協会主催「東日本大震災復興支援ニッケ全日本テニス選手権86th」を冠スポンサーとして特別協賛しました。本大会は日本一を決める歴史と伝統のあるテニス大会で、2011年11月に東京都の有明で開催されました。

また、会場内では「ニッケ親子テニススクール」「ニッケキッズテニススクール」などの一般観戦者・テニス愛好家を対象としたサポートイベントを実施し大会の活性化に貢献しました。



ニッケ全日本テニス選手権

日本馬術連盟とオフィシャルスポンサー契約を締結

ニッケは2010年度より(社)日本馬術連盟の活動に賛同し、馬具・乗馬用品の製造販売・貿易代行事業を展開しているグループ会社の双洋貿易(株)とともに用具の提供などを実施しています。

2011年度からは新たに日本馬術連盟主催の「全日本ジュニア障害馬術大会」「全日本障害馬術大会」の国内2大会への協賛と「ロンドンオリンピック地域予選競技会」における馬術日本ナショナルチームのオフィシャルスポンサー契約を締結し、協賛を実施しました。



馬術大会に協賛

「第23回加古川マラソン大会」に特別協賛

兵庫県加古川市が主催する「第23回加古川マラソン大会」に特別協賛しました。ニッケは1896年の創業以来同市と発展をともにし、印南工場・ニッケパークタウン・ニッケ機械製作所ほか多くの事業拠点を有する企業として、1990年の第1回大会から継続して特別協賛しています。



加古川マラソン

「第6回ニッケ ピュアハート エッセー大賞」の実施

次代を担う若者を応援する文化支援事業として、2006年度から「ニッケ ピュアハート エッセー大賞」を主催しています。

2011年度は「等身大のPure Heart—今だから伝えたい気持ち—」をメインテーマに、「つながり」「ぎずな」「約束」「夢」についてのエッセー大賞を実施しました。「高校の部」「中学の部」の2部門で約17,000点の応募がありました。ゲスト審査員には初回から審査員を務める作家の乙武洋匡氏を今回もお招きし、高校の部の予備審査で選ばれた生徒12名とのトークセッションを2011年11月に東京で開催しました。

100点の入賞作品とトークセッションの様子は2012年3月に『ニッケピュアハート エッセー集 Vol.6』(かんぼう発行)として出版されます。



エッセー大賞受賞者

野外クラフト展「工房からの風」

2011年10月15・16日の2日間、秋の文化催事として、第9回「工房からの風・craft in action」をニッケコルトンプラザで開催しました。工芸作家の登竜門として認知されており、全国から厳選された50名の工芸作家の作品が展覧されました。

多数の来場者をお迎えし、作品の展示販売や、手織りや金工・木工を工芸作家とともに制作するワークショップに作り手と使い手の交流の笑顔が行き交いました。また今回は、東日本大震災の復興支援のため「ぬくもりを届けよう。ニッケ+工房からの風から」と題したチャリティ企画を実施しました。出展作家から提供された作品販売の売上金を、義援金として公益社団法人企業メセナ協議会が行う「GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)」に寄付しました。

2012年度は第10回を迎え、記念となる「工房からの風」を企画したいと考えています。



野外クラフト展「工房からの風」

コミュニティへの貢献

ニッケグループは地域社会に根ざした活動を通じて、近隣の皆様とのコミュニケーションを図るとともに、家族で楽しめる空間を提供しています。

まちなか菜園 ニッケファーム市川

ニッケ北方社宅跡地の有効活用として、2011年4月に「まちなか菜園 ニッケファーム市川」をオープンしました。親子三代で楽しめる会員制貸し菜園として、都市型貸し菜園事業を手がける企業に運営していただいています。経営理念である「地域社会への貢献」に向けた新たな取り組みであり、身近な場所で野菜づくりを楽しむ空間を提供することで、家族の団欒、食育の実践、地域・近隣とのコミュニケーション醸成に貢献しています。

サポートスタッフが野菜づくりのアドバイスを行ったり、短期講座や収穫祭などのイベントも実施しており、野菜づくりが初めての方でも楽しく手軽に始められます。また基本的な菜園用具は無料で利用できるよう、施設に設置しています。

今後も地域に根ざした不動産開発に取り組んでいきたいと考えます。



まちなか菜園 ニッケファーム市川

ピュアハートキッズランド アルパーク広島

2011年7月、広島市にある大型ショッピングセンター「アルパーク」内に「ピュアハートキッズランド アルパーク広島」をオープンしました。地域や家族の人間関係づくり＝コミュニティに貢献するサービスとして、家族で楽しく安心して遊べるインドアプレイグラウンドのオープンは今回で3店舗目となります。

お子様そしてご家族全員が楽しんでいただくために、既存の2店舗で人気のエア遊具、ボールプール、砂場に加えて、お買い物やお店屋さん体験ができる「キッズマーケット」を設けました。

今後ともスタッフ全員で「たくさんのお子どもたちが笑顔になり、ご家族で感動していただける場所の提供」ができるよう努めていきます。



ピュアハートキッズランド アルパーク広島

地域社会との対話

地元小学生の工場見学などの取り組みを通じて、積極的に地域社会とのコミュニケーションを図っています。

工場見学の実施

毛織物の国内有数の産地にある愛知県の一宮第1・第2事業所では、20年以上前から地元小学生の事業所見学を受け入れています。現在は小学3年生の社会科の副読本にも記載されており、2011年度は9校延べ1,046名の小学生が見学に訪れました。

見学では、ビデオで事業所の概要を紹介した後、羊の毛から毛織物ができるまでの工程を案内し、ものづくりの楽しさを体験いただいています。



小学生の工場見学（一宮事業所）

ショッピングセンターが災害時の一時避難場所に指定

2010年8月から、ニッケコルトンプラザは市川市と災害時等における支援に関する協定を締結しています。

災害時には、駐車場などのスペースやトイレなどを避難所施設として利用していただくほか、飲料水として受水槽上水や、食品や日用品といったテナントの商品を提供します。



ステークホルダーへの責任

お客様の安全確保

ISO9001マネジメントシステムに基づくPLP委員会を各部門に設置し、製品安全と品質管理体制の継続的な見直しと強化を図っています。

品質管理体制

ニッケグループでは、商品の製造・販売過程で、各種法律・規格・基準に合致していることを検査・検証し、商品に対して責任を持つ製造・検査プロセスと品質保証体制を確立・維持しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、資格認定者である検査員が製造の各工程で品質基準に適合しているかを検査し、商品の品質を保証しています。

ニッケの印南工場・岐阜工場、アンビック(株)、(株)ゴーセン天神工場、(株)ニッケ機械製作所では、品質マネジメントシステムISO9001認証を、取得しています。

2011年度も、お客様との定期的な品質会議や技術巡回を通じて、さらなる品質向上対策を実施しました。

製品安全

ニッケグループでは「製品安全宣言」および製品安全対策要綱と同規定に基づき、製品の安全性を確保・検証するために、「ニッケグループPLP委員会」を設けるとともに、部門ごとに設置した「部門PLP委員会」が具体的な活動を推進しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、針や金属片の混入防止のために、残針管理者によるチェックや金属検知機による検査を実施し、その結果と対策をPLP委員会で毎月検証しています。

また原料については、検査結果を定期的に供給先にフィードバックし、必要であれば技術指導しています。品質への影響がある加工委託品も受入検査し、定期的に品質向上対策会議を実施するほか、薬品油脂類は継続採用品についても定期的に化学物質等安全データシートを見直して確認しています。

ショッピングセンターでの安全確保

ショッピングセンターに来場されるお客様への安全・安心を追求するために、段差のない館内通路とするとともに、ニッケパークタウンではウォークスルーエレベーター[※]を設置し、ニッケコルトンプラザでは身障者用のエレベーターを導入しています。

また、使いやすい身障者用駐車場、防犯・防災カメラやAED(自動体外式除細動器)などの設備の充実を図っています。

[※]ウォークスルーエレベーター：車椅子で乗り込む場合、降りるときに後進しなくてもよいように、かごの前後に出入り口を配置したエレベーター。



AED(自動体外式除細動器)の設置

取引先様との公正な関係

国内・海外を問わず、官公庁・私企業を問わず、正しい判断と節度ある行動に努めています。

購買取引先様との公正な取引

ニッケグループでは「企業行動基準」に「国内外商取引に関する行動基準」「国内外取引先との付き合いに関する行動基準」「独占禁止法遵守に関する行動基準」を定めて、公正な取引に努めています。

取引先様に対しては、会社の商品やサービスについて、誠意をもって正確に説明し、贈賄や不当な競争制限、架空取引など法令や経営倫理に反することは禁止しています。また事業活動に必要な物品・サービスの調達は、取引先様と対等かつ公平な立場で行うよう徹底しています。取引先様の選定にあたっては、効率的な調達を果すため広く門戸を開放し、取引機会の均等を図っています。選定の基準としては、価格、品質、納期、安全性、環境を基本とし、合理的かつ公正に判断するようにしています。

株主・投資家の皆様との対話

ニッケグループは、社会が求めている企業情報を適時・適切に開示し、社会との良好な関係づくりをめざしています。

情報開示の方針

株主様・お客様・取引先様・社員・投資家・地域社会などが必要とする情報は、企業秘密や契約上の守秘義務があるものを除いて積極的に開示しています。

また、国内外の株主や投資家の皆様とのIR(インベスター・リレーション)を重視し、企業経営と事業活動に関する情報を迅速かつ正確に開示しています。



ウェブサイトの「株主・投資家情報」ページ

従業員の働きやすい職場づくり

社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループをめざして、ニッケグループでは、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

人権の尊重

「ニッケグループ企業倫理ハンドブック」で、雇用の機会均等を図り、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない明るい職場をつくることを掲げ、人権を尊重した職場づくりに努めています。

2011年度も管理職を対象にした「労務管理セミナー」の中で、セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの防止についての教育を実施し、人権の尊重を徹底しました。

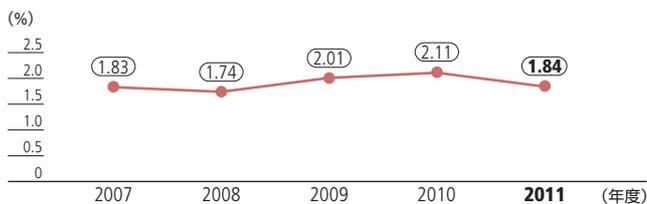
多様な人財の雇用

ニッケでは、高齢者雇用や障がい者の雇用など、多様な人財の雇用に取り組んでいます。高齢者については、2009年4月以降に60歳になった方から、生涯のライフスタイルの安定を図るため、65歳定年制度を施行しました。

また、障がい者雇用は法定雇用率を確保し、障がいのある社員が安心して働き続けられる職場環境づくりに積極的に取り組みます。

● 障がい者雇用率

● 身体障がい者または知的障がい者の雇用率



仕事と家庭の両立

ニッケは男女ともに仕事を続けながら子育てや介護ができる環境づくりをめざしています。特に女性に対しては出産・育児後も離職をせずに仕事を続けられるよう、法定日数・期間を上回る出産休暇・育児休暇の制度を設け、仕事と育児の両立を支援しています。

また、今後ますます重要になる介護休職制度についても法定期間を上回る休職期間を設け、介護世代への支援を広げています。

● 2011年度の「出産休暇・育児休職制度」「介護休職制度」利用者

	法定	ニッケでの制度内容	利用者数
出産休暇	産前6週・産後8週	産前産後各8週	7名
育児休職	1歳 (一定の場合1歳6カ月)	出産休暇終了後1年 (一定の場合1歳6カ月もしくは1歳を超えた年度末まで)	7名
介護休職	93日	勤続5年未満 6カ月 勤続5年以上 1年	0名

安全・衛生に関する取り組み

ニッケでは、年度ごとに安全衛生計画を立案し、着実に実行すべく取り組んでいます。

また、ニッケグループでは、グループ内で発生した労働災害の情報をすべての製造事業所で共有することで、同様の災害を未然に防止するよう努めています。各製造事業所で共通する主要なテーマとしては、リスクアセスメントによるリスクレベルの低減、安全意識の高揚、5Sの徹底、標準動作の見直し、危険予知活動、安全教育の徹底、交通安全教育などがあります。

● 労働災害発生件数/度数率・強度率

	2007	2008	2009	2010	2011
不休件数	15	31	16	12	7
有休件数	4	4	2	2	6
合計	19	35	18	14	13
度数率	1.43	1.50	0.87	0.89	2.50
強度率	0.444	0.036	0.083	0.021	0.051

度数率 = 労働災害発生件数 ÷ 延べ労働時間 × 100万

強度率 = 労働損失日数 ÷ 延べ労働時間 × 1,000

心と体の健康への配慮

メタボリックシンドローム(メタボ)対策として、健康保険組合と協同で特定保健指導セミナーを4回開催しました。その際、社員が立てた目標を半年間継続的に応援・指導し、社員がより生き生きとした毎日を送られるようにサポートしています。

社員の心身にわたる健康の保持増進を図るため、産業医の定期健康診断後の健康指導のほかに、メンタルヘルスに取り組んでいます。新入社員を対象にセルフケア研修会を実施。また管理職研修や係長クラス対象の講習を実施し、部下のメンタルヘルス問題への早期発見・早期対応する能力を高めています。

適正な労使関係

労働組合での対話集会で提起された職場環境の改善などに取り組んでいます。

社員の健康増進と年次有給休暇取得率の向上のため、本人や家族の誕生日、結婚記念日などに休暇を取得する「メモリアル休暇制度」を設けるほか、定時退社日として毎月、ヘルスケアデーを設定し、労使で職場巡回しています。



ステークホルダーへの責任

情報の適切な取扱い



お客様の個人情報保護については「ニッケグループ個人情報保護規定」に基づいて管理を徹底するとともに、グループ内外で保有する知的財産情報も適切に取り扱っています。

個人情報の保護

ニッケグループが事業を継続する上で最も大切な資産は情報であることを認識し、個人情報の適切な取り扱いと保護が社会的責務であると考えています。ニッケグループは2005年に「ニッケグループプライバシーポリシー」と「ニッケグループ個人情報保護規定」を定めるとともに、これらに基づいた管理体制を構築することで、個人情報の適切な取り扱いができるよう管理を徹底しています。また、「ニッケグループ企業倫理ハンドブック」やコンプライアンス社内報などによって、定期的な啓蒙活動も実施しています。

なお、2011年度において、ニッケグループで個人情報漏洩などの事故は発生していません。

これからも引き続き、情報資産の重要性を認識しつつ、時代に即応した適切な個人情報管理体制の構築に努めます。

知的財産の尊重

ニッケでは2008年12月1日付で「環境・知財管理室」を設置しました。ニッケグループ全体が保有する知的財産の管理を統括する体制とすることで、グループが所有する特許の有効利用・防衛などに対処しています。共同研究などにおける秘密保持契約の締結や創出された発明の取り扱いなどにも対応するとともに、グループ外の知的財産の尊重も徹底するように図っています。

また、ニッケグループでは、社員が業務に関連して創造した知的財産を発明報奨制度である「発明考案規程」に基づいて評価・処遇しています。

働きやすい職場環境づくり



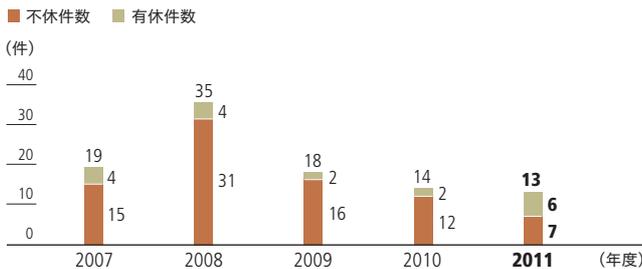
労働災害の防止

ニッケグループでは、安全で衛生的な職場環境を実現することは、社員に対して果たすべき重要な責任であり、また商品の品質を向上させるための第一条件であると考えて、労働災害の防止に努めています。

2011年度、ニッケグループでの労働災害発生件数は不休件数・有休件数を合わせて13件となりました。前年度は14件であり、毎年減少しています。労働災害が発生した職場については、安全衛生委員会が設備と意識の両面から要因を分析し、対策を講じています。

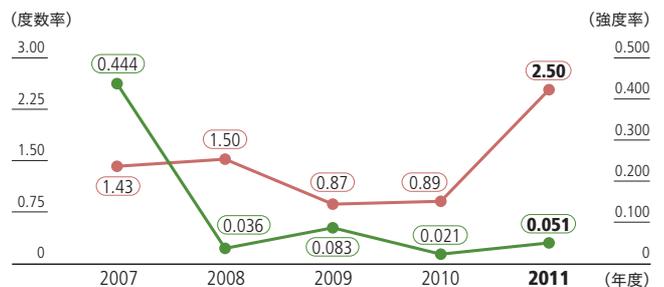
今後さらに安全衛生活動の充実を図り、災害ゼロに向けて努力を続けていきます。

労働災害発生件数



度数率・強度率

● 度数率 = 労働災害発生件数 ÷ 延べ労働時間 × 100万
 ● 強度率 = 労働損失日数 ÷ 延べ労働時間 × 1,000



保安防災の取り組み

ニッケでは毎年策定する管理計画に基づいて、保安防災に取り組んでいます。

2011年度も、ニッケ各事業所では近隣グループ会社と連携して、放水訓練、緊急・避難訓練、消火器を使っの初期消火訓練、防火パトロール(工場内・社宅・寮)を実施しました。こうした訓練の実施内容については、社内報に掲載しグループ全社員の意識高揚を図っています。また、自動火災報知器や消火器など消防設備の定期点検も実施しています。

ニッケグループ各社の取り組み

ニッケ(日本毛織株式会社)

本社

震災以降の原発停止による電力不足に対応するため、照明の間引きや空調温度28℃設定の厳守に努めました。またエアコン室外機に水噴霧する水処理装置を設置し、ピーク電力の低減を図りました。

さらに、空調機を2フロアで省エネタイプに更新しました。



照明の間引き

神戸本店

夏の節電対策として、照明の間引きのほか一部のフロアで換気扇を導入し、最大電力を抑制しました。

また社会貢献活動として、エコキャップ・プルタブの回収を継続実施しています。



照明の間引き

東京支社

室内外の照明、空調使用期間と温度設定、直射日光の遮断など最大限の対策を実施しました。その結果、4月～9月の東京支社の電力使用量は前年比40%の低減を達成しました。



節電を呼びかけるポスターを掲示

北海道営業所

室温管理の徹底と必要箇所以外の消灯に加え、蛍光灯の本数を最小限に減らして、消費電力を削減しました。

また、ペットボトル・缶・ビン・段ボール・新聞の分別とリサイクル、無駄なコピーの削減など資源保全に取り組みました。

仙台営業所

当営業所は東日本大震災以降、特に国の施策もあり節電を中心に環境活動に取り組みました。夏期は極力エアコンの使用を控え、冬期暖房も通常2機から1機に減らしました。

継続的に休憩時の消灯の徹底とゴミの分別に取り組みました。

名古屋営業所

コピー用紙の再生紙使用、社内用コピーの裏面利用のほか、無駄なコピーを排除し、印刷枚数を削減しました。また、事務所空調機の温度管理の徹底、不使用時の消灯にも取り組みました。

2011年度は、広告塔の照明時間削減、蛍光灯の間引き、冷房温度28℃の徹底を実施し、前年度比68%の節電を実現しました。

広島営業所

継続的に、空調設定温度の管理の徹底、分別ボックスでのゴミ回収、ペットボトルのエコキャップ回収を実施しました。

コピー用紙は再生紙を購入し、裏面利用も継続しています。

九州営業所

空調設定温度管理の徹底、不要照明の消灯などの省エネ対策に加え、夏期には蛍光灯の数を半減し節電に努めました。

また、コピー用紙の裏面利用、コピー枚数削減や、ペットボトル・缶・ビン・新聞・段ボールの分別にも取り組みました。

印南工場

【ユニフォーム素材・カーベットの製造】

ISO14001認証取得/2000年11月
(登録番号 JMAQA-E156)

2011年10月に蒸気駆動コンプレッサを導入しました。これは生産用の圧縮空気の一部を電気コンプレッサではなく、蒸気駆動により発生させるもので、夏の節電対策としても期待できます。



蒸気駆動コンプレッサ

一宮事業所

【メンズ・レディスファッション素材を中心に製造】

ISO14001認証取得/2007年12月
(登録番号 JMAQA-E724)

食堂、事務所、生産職場の蛍光灯の間引きを実施し、社員一丸となって省エネ活動を推進しました。

また、工場内の誘導灯、全149台をLEDタイプに更新しました。11月には、省エネ型受電変圧器の更新を実施しました。



省エネ型の受電変圧器

岐阜工場

【毛糸の製造】

ISO14001認証取得/2001年10月
(登録番号 JMAQA-E234)

夏の電力のピークカット対策として、一部のエアコンの電力供給源を発電機としました。また食堂のエアコン

電力を抑制するため、コンパクトな深夜食堂を利用し、昼の休憩交替を実施しました。そのほか、照明の間引きやエア漏れ修理など、幅広く省エネ対策を実施しました。



照明の間引き

ニッケコルトンプラザ

【ショッピングセンター】

空調の室外機に散水設備を導入しました。上水をRO膜に通して室外機のアルミフィンに悪影響を及ぼす成分を取り除いた純水をつくり、アルミフィン上部に取り付けたノズルから純水を噴霧、蒸発潜熱を利用し冷却を助け、外気温が高いときに起こる圧縮不足を補い、室外機の電気使用量を減らします。CO₂排出量・経費の削減に貢献しました。



空調室外機の散水設備

ニッケパークタウン

【ショッピングセンター】

電力削減のために5月のリバーサイドゾーン駐車場のLED化に続き、11月に南出入口、東出入口、フードコート、西館2階、センタープラザの照明をLEDへ切り替えました。

今後も最大需要電力10%削減を目標に取り組んでいきます。



照明のLED化

ニッケグループ各社の取り組み

衣料繊維事業

株式会社ナカヒコ

【衣料繊維製品および繊維資材製品の販売】

ISO14001 認証取得 / 2002年6月
(登録番号 E465)

2011年度は3年ごとに行われる、ISO14001の更新の認証を受けました。当社は紙・ゴミの排出削減や電気の省エネ活動を中心に、エコ素材やノンハロゲン・ノンホルマリン商品の拡販に取り組んでいます。

また、全社でエコキャップ回収運動に継続参加して、より地球環境にやさしい企業をめざしています。

アカツキ商事株式会社

【衣料繊維製品の販売】

ISO14001 認証取得 / 2001年9月
(登録番号 JSAE419)

震災以降の節電要請に対応して、急遽、夏期電力削減対策を全店に通達、7月～9月の期間中、毎日ノー残業デー、夏期休暇の3日延長、クールビズの早期実施、休日出勤の禁止、空調設定温度の厳守(女子服装自由、扇風機活用)など全員で取り組みました。

本社サイトでは、この期間での電力使用量は前年実績を23.2%の削減(目標15%削減)と大きく貢献できました。

職場の4Sを継続的に推進し、職場環境の美化とともに無駄のない環境づくりにも取り組んでいます。

佐藤産業株式会社

【衣料繊維製品の製造・販売】

ISO14001 認証取得 / 2001年11月
(登録番号 JE0129D)

照明は必要最小限のレベルまで減灯し、また空調機はタイマー設定により稼働時間を短縮した結果、6月～9月の間で電気使用量を前年比28.6%削減できました。

年内はノー残業デーを週2回とし、退社時間の繰上げを実施しました。前年に引き続き環境対応車の導入に努めました。

大成毛織株式会社

【織物の製造】

原発事故による節電要請に対し、飲料自動販売機2台を省エネ型1台にしてデマンド活用、照明削減、こまめな消灯、空調管理徹底、窓ガラス遮光、モーター空運転停止、休日振替など、全社員で積極的に取り組みました。

その結果、7月～9月の3カ月間では、前年比で使用電力を14%削減、最大電力を7%削減。通年の原単位でも前年度比7%削減と貢献できました。



照明のこまめな消灯

株式会社中日毛織

【織物の製造】

省エネ環境保全活動として、節電・コピー用紙裏面利用・ゴミ減量化と分別仕分け・社有車利用節減を全社員が取り組みました。

夏期に、照明・事務機器・エアコンの節電体制を強化、以降も継続的に実施しています。



照明の間引き

尾州ウール株式会社

【毛糸の製造】

2011年度は、一宮事業所内への移転により新工場施設でのスタートとなりました。



外気遮断用シートを設置

工場屋内の空調効果を高めるため、外部からの主要通路出入りに外気遮断用シートを設置しました。また、現場空調ダクトを事務所へ接続するなど、省エネ活動に努めました。

金屋ニット株式会社

【ニット製品の製造・販売】

2008年度に更新したボイラによるエネルギー使用量の削減や、裁断くずの再生利用などに、継続的に取り組みました。

2011年夏期に取り組んだ節電を継続して実施し、社内での日常的な活動の中で、引き続き全員で環境に取り組んでいます。



更新したボイラ

株式会社キューテック

【織物製品の縫製加工】

前年度に引き続き工場内の不要照明の消灯と空調温度管理、コピー用紙の裏面利用に努めました。

また、2台ある飲料自動販売機を、消費電力量が同じ大きな自販機1台にして電気使用量を減らしました。営業時間外の待機電力量を減らすため、夜間は自動販売機の電源が切れるようにしました。



省エネタイプの自動販売機に変更

日毛(上海)貿易有限公司(SNK)

【中国国内をはじめとする海外向け毛糸の販売】

資源保全と廃棄物削減のために、ペーパーレス化(資料などのパソコンでの閲覧)を促進し、コピーが必要なものは極力用紙の裏面利用することを継続的に実施しています。また、社員の健康管理のため、事務所と会議室の禁煙を継続して実施しています。

その他事務用品などの購入を見直し、使用可能の備品は再利用するよう努めています。

江陰日毛紡績有限公司(JNS)

【毛糸の製造・販売】

2010年度に江陰日毛印染有限公司で実施した工場内インバーター式蛍光灯への更新を、2011年度は当社でも実施しました。またダブルツイスター(撚糸機)にインバーターを取り付けました。

その結果、原単位で前年度比約5%の電気使用量を削減することができました。



インバーターを取り付け

衣料繊維事業

江陰日毛印染有限公司 (JND)

【色トップの製造】

排水量をリアルタイムで監視する装置を設置し、役所関係部門にもデータが送信されるようにし環境保全を進めました。

近隣河川に放流していた生活排水も污水处理場に排水できるように配管工事を実施しました。



排水監視装置を設置

青島日毛織物有限公司 (QNF)

【織物の製造加工】

段ボール・使用済薬品ケース・糸くず・生地断片・使用済紙類のリサイクルと使用済みコピー用紙の裏面使用に努めました。また工場周りの緑化に取り組みました。

省エネ対策として、製造現場・事務所・トイレの不使用时の消灯を徹底しています。

NIKKE PORT PHILLIP SCOURING PT., LTD. (NPS)

【原料加工】

2011年度は排水温度管理の向上をVWPと検討し、洗毛槽掃除時の排水の分散化に取り組みました。

洗毛槽の排水は約60℃あり、生産設備の稼働中は熱交換器を使用して約36℃まで下げて排水しています。しかし、洗毛槽の掃除の際には生産に使用している新水が停止するため熱交換機能が働かず、排水温度も高いまでした。

少しでも環境負荷を減らすために、洗毛槽の掃除時に同時に6槽排水を分散させて排水することで、工場排水温度のピークを下げるようにしました。

資材事業

アンビック株式会社

【繊維資材製品の製造・販売】

ISO14001 認証取得 / 2001年11月
(登録番号 JQA-EM1898)

熱中症対策として、水の気化放熱を利用したクールルーフファンを工程内に3台設置しました。設置前と比較して5℃の差が記録され、効果も確認済みです。



クールルーフファンを設置

日本フェルト工業株式会社

【繊維資材製品の加工】

西工場は従来2台を使用していたが、配管レイアウトを変更することで1台のみで圧力の安定したエアを供給することができました。節電にもつながりました。



コンプレッサの配管を変更

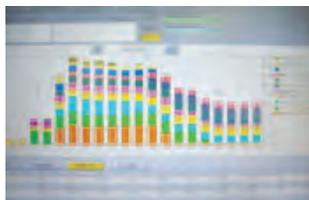
株式会社ゴーセン

【テニス・バドミントンラケット、釣糸、産業資材の製造・販売】

ISO14001 認証取得 / 2005年4月
(登録番号 JQA-EM4701)

主要製造ラインごとに電力量測定システムを導入し、工程別の電力使用状況を見える化しました。

また、社員環境研修でDVD“いのちの水”を利用して、排水処理の重要性を説明しました。



電力使用状況の見える化

ホクレン株式会社

【繊維資材の染色加工】

節電に取り組みました。また、従来の染色条件を見直し、素材によって加工時間を短縮することでエネルギーを削減しました。

排水処理水の分析や繊維くずのリサイクルを継続しています。

また、工場内外の清掃と年2回の工業団地の一斉清掃には継続して参加・実施しています。

江陰安碧克特種紡織品有限公司 (JAF)

【繊維資材製品の製造加工】

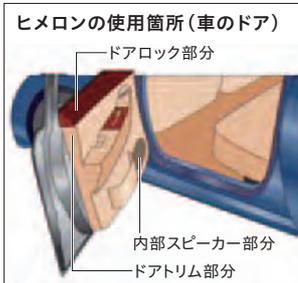
毎日、乾燥機へ反物を投入していたのを、投入数量を2倍にし2日おきにすることで乾燥機の稼働日数を半減し、蒸気使用量を前年度比17.9%削減しました。

安碧克(香港)有限公司

【繊維資材製品の販売】

アンビック(株)製造の不織布「ヒメロン」は、ノンハロゲン・ノンホルマリンで、電機電子機器のRoHS指令や自動車業界のVOC規制にも適合しています。

2011年度は前年度と比べて全体的に非常に厳しい市況となりましたが、「ヒメロン」を中国市場にて約3%増販売できました。



上海高織製紐有限公司

【繊維資材製品の製造】

ISO14001 認証取得 / 2004年3月
(登録番号 01104031654)

コピー用紙の裏面利用や、不要なときの工場内の全面消灯、原糸くずのリサイクル化に継続して取り組んでいます。

エンジニアリング事業

株式会社ニッケ機械製作所

【機械設計・製造・販売】

ISO14001 認証取得 / 2004年11月
(登録番号 1664297)

環境法令遵守として、PRTR制度の対象化学物質の新規届出をしました。また資材部門の注文書の様式をスリム化して、用紙の使用量を削減しました。社内では、常に節電と、紙くず・金属・パソコンなどのリサイクルを実施しています。

株式会社ニッケテクノシステム

【電子・電気計測器、制御装置、および専用機の設計・製造・販売】

管理委託先に省電力型エアコンへの更新を要望し、東棟社屋へ入替。他の節電施策と合わせ、単月で約10%の節電となりました。

また国内向け商品出荷時の梱包用スリーブを廃止し、養生テープへ変更して省資源化しました。

徳士計測儀器(香港)有限公司

【電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売】

節電対策として、パソコン3台を新機種に変更しました。

請求書の電子化やインターネットバンキングの導入で不要な書類の低減を図りました。カタログの印刷部数を削減し、ウェブサイトの活用に取り組みました。

徳士計測儀器(深圳)有限公司

【電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売】

中国ではあまり一般的でない回生(電池の電力を測定しながら家庭用電気として再利用する)機能付きのリチウム電池用の充放電試験装置を展示会で紹介し、環境市場での認知に努めました。

展示会でのパネルを枠のあるタイプに変更し、再利用しました。

ニッケグループ各社の取り組み

開発事業

ニッケ不動産株式会社 【住宅などの建設・販売、不動産管理事業】

原発事故に伴う節電呼びかけに対応し、照明器具18個のうち支障のない4個を任意に消灯できるようキャノピースイッチを取り付けました。

電気使用量を前年度比2.3%削減することができました。



スイッチを取り付け任意に消灯

コミュニティサービス事業

株式会社ニッケ レジャーサービス 【ゴルフ施設運営・管理】

ニッケコルトンゴルフセンターとニッケコルトンバッティングドームは3月以降、節電計画30%を掲げ取り組んだ結果、電力消費量を前年度比67%まで抑制できました。

中部と関西のゴルフ関連事業所も10%の節電計画を掲げ取り組んでいます。また事業所内外の清掃作業を実施して「挨拶運動」を展開し地域の方々とのコミュニケーションを図っています。

株式会社ニッケ インドアテニス 【テニス施設運営・管理】

使用電力監視システムを有効活用し、電気使用量を抑制しました。

今後は、ボールカゴ・カラーコーン・段ボール・雑誌・カタログなどの無料引き取りによるリサイクルを実施します。またLED電球の導入について、費用対効果を検討中です。

株式会社ニッケ・ ケアサービス 【介護事業】

従来から、5カ所の介護事業所でコージェネ(熱電併給)を設置し、冬場の床暖房などに活用しています。さらに不要照明の消灯を徹底し、コピー用紙の裏面利用を積極的に実施しました。

また継続的に加古川給食センターで天ぷら油をリサイクルしました。

株式会社ジーシーシー 【携帯電話販売】

不要となった携帯電話機の回収・リサイクルや、書類のスキナ取り込みによる電子化保存などで紙資源の節約などに注力しました。

ニッケアウデオSAD 株式会社 【菓子小売・キッズランド・TSUTAYA】

サーティーワンアイスクリーム、キッズランドの一部で照明をLEDに変更しました。

TSUTAYAではFAXの受信が多くなる書籍を扱う店舗に、メールで受信が可能なグリーンFAXを導入し、必要な内容だけ出力するようにしました。

また、全部署において用紙の裏面利用および、一部照明の消灯などによる節電を積極的に実施しました。



照明をLEDに変更

株式会社ニッケ・ アミューズメント 【飲食・カラオケ施設運営・管理】

マイバッグ持参運動をアルバイト社員含む全スタッフに拡大して、明るく楽しく長続きするエコ活動の推進に努めました。

生活流通事業

ニッケ商事株式会社 【毛布・寝装用品の製造・販売、手編糸・スーツの販売】

全部署に待機電力を抑えることができる、節電タップを導入し待機電力の節減に努めました。

また3階事務所内の不要照明の消灯、コピー用紙の裏面利用、グリーン購入対象品の購入などにも取り組みました。

双洋貿易株式会社 【馬具・乗馬用品の製造・販売】

夏期にスーパークールビズを採用し空調の使用を控えました。

引き続きゴミ分別ルールを徹底し、不要な照明はその都度消灯するなど、着実な活動に全員で取り組みました。

ニッケペットケア株式会社 【ペット用品の製造・販売、ペットフードの輸入販売】

2011年度は震災以降、照明の間引き、不要照明の消灯、夏期のエアコンの温度設定など、節電に積極的に取り組み前年度比15%削減を達成しました。

株式会社ニッケ物流 【倉庫管理・運送】

2011年度は、夏期に事務所の窓際にゴーヤを植え、グリーンカーテンの作成をしました。

また運輸部門では省エネ走行講習会などに参加し、運転技術の向上と環境に配慮した走行の実施に努めています。2012年度は低公害車の導入を予定しています。

ニッケグループウェブサイトには 冊子に載っていない詳細情報を掲載しています

冊子に掲載しきれなかった環境データやパフォーマンス情報、サイト別パフォーマンスデータやガイドライン対照表のPDFをニッケグループウェブサイトに掲載しています。あわせてご覧ください。



このマークがついた情報はウェブのみに掲載しています。



<http://www.nikke.co.jp/csr/ecology/index.html>

ニッケ 環境 検索

サイト別パフォーマンスデータ

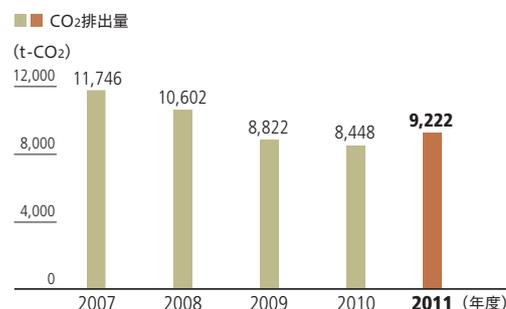
印南工場



● サイト別パフォーマンスデータ

		2008	2009	2010	2011	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	10,602	8,822	8,448	9,222	109%	
	電気使用量(MWh)	10,823	10,112	10,195	10,477	103%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	3,084	2,669	2,408	2,721	113%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	705	591	632	592	94%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	674	585	628	591	94%	
	廃棄物 最終処分量(t)	31.4	5.7	3.8	1.2	32%	
水	用水使用量(千m ³)	1,282	1,109	1,209	1,047	87%	
	排水量(千m ³)	1,270	1,118	1,270	1,179	93%	
	排水負荷量	COD(t)	13.8	10.8	11.5	11.2	97%
		BOD(t)	4.57	4.14	4.62	4.35	94%
		SS(t)	5.97	4.92	3.77	3.91	104%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	3.77	2.47	2.18	2.42	111%	
	ばいじん排出量(t)	0.721	0.031	0.031	0.041	132%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



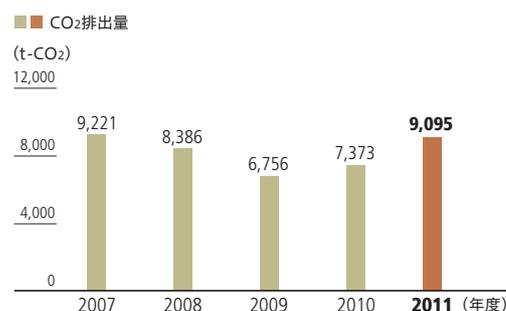
一宮事業所



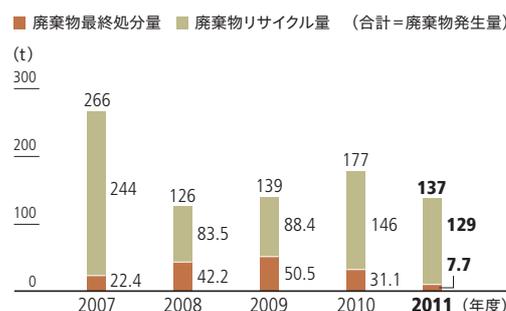
● サイト別パフォーマンスデータ

		2008	2009	2010	2011	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	8,386	6,756	7,373	9,095	123%	
	電気使用量(MWh)	9,804	7,372	8,376	10,565	126%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	2,094	1,615	1,689	2,029	120%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	126	139	177	137	78%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	83.5	88.4	146	129	89%	
	廃棄物 最終処分量(t)	42.2	50.5	31.1	7.7	25%	
水	用水使用量(千m ³)	549	399	434	551	127%	
	排水量(千m ³)	436	337	355	359	101%	
	排水負荷量	COD(t)	12.7	9.2	8.3	7.6	92%
		BOD(t)	2.41	1.41	1.09	1.21	110%
		SS(t)	0.361	0.491	0.416	0.380	91%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	1.03	0.97	1.16	1.14	98%	
	ばいじん排出量(t)	0.150	0.138	0.147	0.131	89%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



サイト別パフォーマンスデータ

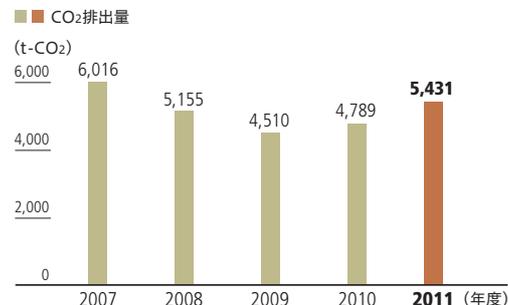
岐阜工場



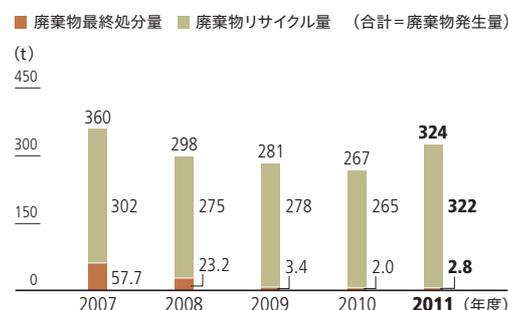
● サイト別パフォーマンスデータ

		2008	2009	2010	2011	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	5,155	4,510	4,789	5,431	113%	
	電気使用量(MWh)	8,799	7,627	8,118	9,236	114%	
	A重油使用量(kL)	489	50.5	0	0	0%	
	都市ガス使用量(千m ³)	6.32	328	432	474	112%	
	プロパンガス使用量(t)	0.500	0.570	1.211	1.030	85%	
	ブタンガス使用量(千m ³)	12.2	13.3	13.0	14.7	113%	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	298	281	267	324	122%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	275	278	265	322	121%	
	廃棄物 最終処分量(t)	23.2	3.4	2.0	2.8	138%	
水	用水使用量(千m ³)	859	802	848	909	107%	
	排水量(千m ³)	846	789	833	891	107%	
	排水負荷量	COD(t)	11.5	11.2	8.8	11.8	134%
		BOD(t)	10.5	9.4	5.9	10.2	173%
		SS(t)	6.55	6.52	7.58	11.49	152%
大気	SO _x 排出量(t)	0.580	0.071	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	0.460	0.299	0.121	0.132	109%	
	ばいじん排出量(t)	0.0190	0.0019	0.0067	0.0055	83%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



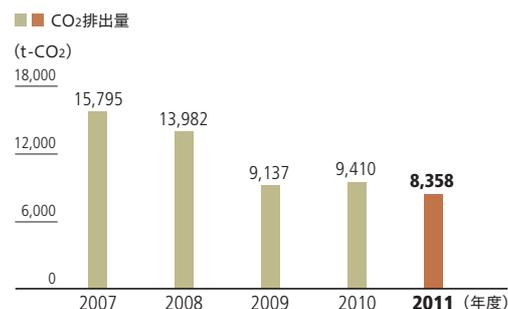
報告対象グループ会社※



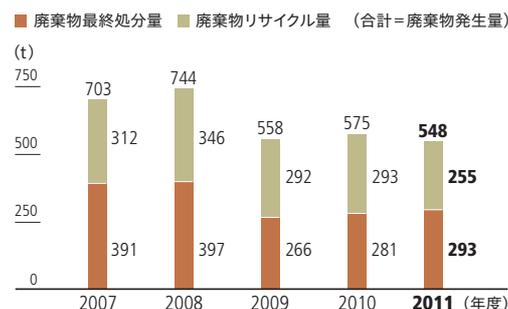
● サイト別パフォーマンスデータ

		2008	2009	2010	2011	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	13,982	9,137	9,410	8,358	89%	
	電気使用量(MWh)	20,808	13,708	12,831	11,270	88%	
	A重油使用量(kL)	461	158	118	140	118%	
	都市ガス使用量(千m ³)	2,078	1,577	1,934	1,717	89%	
	プロパンガス使用量(t)	1.55	1.58	1.48	1.37	93%	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	744	558	575	548	95%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	346	292	293	255	87%	
	廃棄物 最終処分量(t)	397	266	281	293	104%	
水	用水使用量(千m ³)	458	397	390	236	61%	
	排水量(千m ³)	417	267	190	148	78%	
	排水負荷量	COD(t)	5.41	2.98	3.27	2.13	65%
		BOD(t)	0.660	0.350	0.225	0.147	65%
		SS(t)	1.86	1.01	0.83	0.12	14%
大気	SO _x 排出量(t)	1.14	0.48	0.30	0.36	118%	
	NO _x 排出量(t)	2.05	1.40	1.26	1.00	79%	
	ばいじん排出量(t)	0.0920	0.0220	0.0398	0.0443	111%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



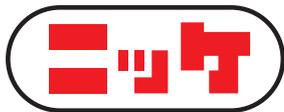
※ 報告対象グループ会社：尾州ウール(株)、大成毛織(株)、金屋ニット(株)、アンビック(株)、(株)ゴーセンの国内グループ会社5社。

環境報告ガイドライン対照表

● 環境省「環境報告ガイドライン」(2007年版)との対照表



基本的情報	環境報告書2012 該当ページ	Webのみ 掲載情報の有無
1 経営責任者の緒言	P.3	
2 報告にあたっての基本的要件	P.2	
3 事業の概況	P.1	
4 環境報告の概要	P.1、P.12、P.13	
5 事業活動のマテリアルバランス	P.13	
環境マネジメント指標		
1 環境マネジメントの状況	P.9-11	○
2 環境に関する規制の遵守状況	P.10	
3 環境会計情報	P.10	
4 環境に配慮した投融資の状況	—	
5 サプライチェーンマネジメント等の状況	—	
6 グリーン購入・調達状況	P.14	
7 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	P.19-21	
8 環境に配慮した輸送に関する状況	P.16	○
9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—	
10 環境コミュニケーションの状況	P.10	
11 環境に関する社会貢献活動の状況	P.28-31	
12 環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	P.19-21	○
オペレーション指標		
1 総エネルギー投入量及びその低減対策	P.13、P.15-16	○
2 総物質投入量及びその低減対策	P.13、P.16	○
3 水資源投入量及びその低減対策	P.13、P.15-16	○
4 事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	P.13、P.16	○
5 総製品生産量又は総商品販売量	P.13	
6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P.13、P.15-16	○
7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	P.13、P.17-18	○
8 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P.13、P.17-18	○
9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P.13、P.15-16	○
10 総排水量等及びその低減対策	P.13、P.17-18	○
環境効率指標		
環境配慮と経営との関連状況	—	
社会パフォーマンス指標		
社会的取組の状況		
① 労働安全衛生に関する情報・指標	P.26、P.27	○
② 雇用に関する情報・指標	P.26	
③ 人権に関する情報・指標	P.26	
④ 地域及び社会に対する貢献に関する情報・指標	P.23-24	
⑤ 企業統治(コーポレートガバナンス)・企業倫理・コンプライアンス及び公正取引に関する情報・指標	P.4	
⑥ 個人情報保護に関する情報・指標	P.27	○
⑦ 広範な消費者保護及び製品安全に関する情報・指標	P.25	
⑧ 企業の社会的側面に関する経済的指標	P.6	
⑨ その他の社会的項目に関する情報・指標	P.27	○



〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号
Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

<http://www.nikke.co.jp>